

777

37

週報叢書
第三
新支那讀本
内閣情報部編



* 0000363000 *

0000363-000

777-37

新支那讀本

情報局・編

内閣印刷局

昭和15

AAB

週報叢書

777

37

新支那讀本

內閣情報部編

週報叢書 3

新支那讀本

內閣情報部編



週報叢書 新支那讀本

刊行のことば

日支の基本關係條約が締結されて、東亞新秩序の建設は更にその歩を一步進めた。新生支那の建設状況を紹介するために、内閣情報部ではさきに興亞院の協力の下に「新支那讀本」を特輯、「週報」に連載して來たが、基本條約の締結を機會に、十四回に亘るその稿をまとめ、多少の補筆を加へて、週報叢書第三輯として刊行することにした。新秩序の建設漸くその緒につき、大陸への認識がますます要請されてゐる今日、新支那の建設状況を知る一助ともなれば幸ひである。

新支那讀本

目次

新秩序の黎明……………	一
新國民政府のその後……………	八
北支の特殊事情……………	三
工業……………	三九
鑛業……………	三九
農業……………	四三
交通と通信……………	四四

783

476

ドイツの勝利は、要するに新らしき國家體制の古き國家體制に對する勝利であり、新らしき戰爭觀の古き戰爭觀に對する勝利である。そしてこの古き世界秩序が、新らしき世界秩序を建設せんとする全體主義國家の攻撃の前に、一たまりもなく崩壊してゆく姿をわれ／＼は歐洲の天地に見てきた。これを人は歴史の必然と呼び或ひは史代の變革期と呼んでゐる。その用語の妥當性はともあれ、洋の東にも西にも、新らしき世界秩序建設の黎明が訪づれ、新らしい世界歴史の第一頁が書かれ始めたことは嚴然たる事實である。

とはいつても、われ／＼は、日本の東亞新秩序建設の理想なり、その行動の原理なりが、ドイツやイタリアのそれ等と同一だといふのでは

二

決してない。われ／＼は日本人として、日本民族の優越性を信ずる。しかし、その優越性は、他民族を征服し支配する力があるから優越してゐるといふのではなくて、他民族と協同し、これを指導する力があり、またさうすることが、われわれの光榮ある任務であり責任であるところに見るところに、その優越性を認めるのである。これは單に日本人だけの獨りよがりではない。かの孫文も「日本なくして東亞なし」と喝破したし、汪精衛氏もまた同様に叫んでゐる。

日本の東亞新秩序建設の理想は、八紘一宇といふ驛國以來の日本の國家的理想を樞軸として東亞に東洋的道義の新秩序をうち立てんとするにある。それ故、この新秩序の中に包含されてゐる東亞新經濟體制にしてみても、その本質は

決して排他的なものではなく、東亞といふブロックの内にもこまらうとするものでもない。

逆に他の世界に對しても大いに通商しようとする經濟體制である。たゞ、現在においては、世界經濟の一般情勢は、それ／＼の國家がブロックを形成し、逆にわれ／＼に對して門戸を閉鎖してゐるから、われ／＼も亦これに對抗する必要上、東亞自給自足經濟體制の完成を目ざして進んでゐる譯である。また國際情勢、國防上の見地からいつても、東亞自給自足體制の完成は今日の急務である。

だが、いまいつたやうに、單なる自給自足體制を目ざすのが、われ／＼の新東亞經濟體制樹立のすべての目的ではない。かういふ經濟關係の中に、なほ「八紘を掩ひて宇となす」協同關

係を樹立すること——これがわれ／＼の新東亞經濟體制樹立の重點である。

日本は今から四年前、東亞六億萬人の運命を賭けて立ち上り、執拗なる現状維持諸國家群の防碍工作を乗り越え、今や長期建設といふ東洋的創造の過程を進みつゝあるのであるが、たまたまこの時に當つて、歐洲における新情勢の展開が、歐洲においても、現状維持諸國家の崩壊が歴史の必然の運命であることを實證しつゝある。そこにもわれ／＼は大きな意義を見出す。何人でも、また、いかなる國家でも、歴史の流れに抗して立つ者は結局は亡びざるを得ないのである。この意味において、日本の勝利は、何人の保證を俟たずとも、聖戰目的それ自體の中に既に約束されてゐることなのである。

支那事變が世界史的課題として提出されたものであり、その解決も世界史的方向に沿ふものであることは、一部の人々によつては早くから云はれてゐたことであつたが、現在では多くの人々がそれを肯定するまでに、すべての事態が判然としてきた。このことを決定的に明らかにしたものは、最近における歐洲の新情勢の展開と、それが極東に及ぼした數々の影響とである。それによつて、支那事變の持つ特異の歴史的な意義が、やうやく萬人に納得される日が来たのである。こゝに事變處理は新しい段階に入つてきた。

率直に事實を述べれば、支那としては、抗日勢力の中に進歩的分子といはれる者が多く、親日陣營の中に寧ろ舊支那秩序の維持を有利とす

る舊世界秩序に對して敢然として挑戦してゆく現状打破勢力と結ぶかによつて、眞の進歩的か保守的かを決定しなければならぬ時代となつてきたのである。

かうして、從來の進歩的必ずしも進歩的ならず、保守的必ずしも保守的ならずといふ新事態が生れてきた。そして、歴史の女神が、右の兩陣營のいづれに對してほゞ笑みかけてゐるかといふことも、今や、はつきりとしてきた。事態が既にこゝまで整理されてきた以上は、この事實を前にして、われ／＼日本人も支那人も充分に再思三省することが必要である。

日本の事變處理方針は固より終始一貫して變るところはないのであるが、從來は日本の眞意が未だ充分に徹底してゐなかつたきらひがあつ

る保守的分子が多いといふ、一見極めて奇妙な事實が存在する。これは要するに、蔣政權の教育方針なり施政方針なりが顛倒してゐたことから来る結果なのだ、蔣政權のこれ等の政策を顛倒させた責任の一半は、日本の嘗ての對支政策の中にあつたことも率直に認めなければならぬ。しかし、時代の激しい流れは、かうしたことはすべて過去の事實として押し流してしまつて、今や全く新しい角度から進歩、保守の判定を下さなければならぬ時代となつてきた。

即ち、自己の現在の利益を護らんがために、世界全體の進歩を阻止せんとする現状維持勢力と結ぶか、或ひは、自己の正當なる成長發展を遂げつゝ、しかもなほそれを通じて世界全體の進歩を推し進めるために、これを阻止せんとす

たことは否み難い。殊に極東に於ける錯綜せる國際關係が日本の眞意を歪曲し、その正當なる顯現發展を阻止する重大なる障礙となつてゐたことは事實である。しかし、かゝる國際的惡條件は今や漸やくにして一掃されんとする機運が動き出してきた。今度の歐洲戰爭が勃發するや日本はいちはやく、歐戰不介入の方針を發表した。不介入といつても、それは歐洲の弱い國のそれに見るやうな消極的中立政策を意味するものではなく、あくまでも事變處理完遂に重點を置いた、それに必要な限りでの不介入である。従つて、事變處理完遂の建前から、時々刻々の國際情勢の進展を見まもりつゝ、その都度それに必要な手を打つてきたことはいふまでもない。即ち、蘭印問題に關する聲明、天津租界間

題の解決、佛印の援蔣物資輸送禁絶に関する措置、ビルマ・ルートに関する上記と同様な趣旨に基づき對英申入れ、香港ルートの武力的遮断、佛印への平和的進駐等々である。

かくして、十一月三十日には、日華基本關係條約及び日滿華共同宣言の調印となり、支那事變は、全く新たな段階に入つたのである。

これに對して、蔣政權の現状はどうであらうか。それがいよいよ最後の土壇場に迫ひ詰められてきたことは明らかである。國際情勢の悪化、國共摩擦の激化、財政破綻、危機の切迫等々によつて、蔣政權の動搖の振幅はいよいよ増大し、ますます加速度的となつてきた。世界史的方向が次第に明確に示され出した結果として、無用な抗争を抛棄する者も今後は次第に増加して

六
ると思はれる。しかし、眞剣に抗争する者は、ともすれば大きな流れを忘れ勝ちなものである。故に、現在最も進歩的であると自ら信じてゐる分子が、實は最も反動的な役割を演ずる結果となりつゝある事實を覺醒するまでには、なほ相當の時日を要するであらう。それまでは、ともかく一つの反日的勢力は存在し續けるであらう。

これに對し、日本との協力の下に、新東亞の建設に乗り出して來た新國民政府は、今後はいよいよ急速に發展するであらう。すくなくともこの派に屬する人々の國際情勢に関する見通しが、重慶側のそれよりも絶對的に正しかつたことは、今や完全に立證されたのである。漢奸の汚名を甘受しつゝ敢然として和平救國のために

起つたこれ等の人々の苦衷は、やうやく報いられはじめたのである。この際、支那抗日陣營の政治家、識者達が歴史的な方向轉換を敢へてすることは最も望ましいことである。東洋の明日を思ふ者は誰しもそれを熱望するであらう。

先づ必要なのは、抗日支那識者の反省と勇氣とであるが、それと同時にわれ／＼日本國民も、より深い反省と、より大きな勇氣とを必要とする。支那民族の基本的な要求が何であるか、それと日本の存立發展の欲求とを如何に調整し、如何に協同的に發展せしめるか、これ等の問題に關する、より以上の眞剣なる考慮と、それを實踐に移す場合の勇氣とが、今日ほど痛切に要求されてゐる時はない。固より日本の進んで行く道は既に決定してゐる。われ／＼として

つしぐらにそれに進んで行けばいいのであるが、新秩序への前途はなほ障碍だらけである。國民はこゝでなほ一層決意を固くして、舉國一致邁進しなければならぬのである。アジアに千載一遇の好機が訪れたのである。この機を逸してアジアがなほ依然として眠り續けるのであれば、アジアは遂に永遠に醒める時なく、救はれないであらう。

新國民政府のその後

八

新中央政府は、汪精衛氏の重慶脱出後の和平宣言に始まり、昨年七月十日にはラヂオを通じて日支關係に對する根本觀念と前進目標とを明らかにし、昨年秋頃からは新政府の工作は次第に具體化してきたが、この間、臨時維新兩政府との間にも諒解が進められ、今年一月二十三日から二十五日まで行はれた青島會議により、この方面との打合せを完了し、いよいよ準備が出来たので、三月十二日、中國國民黨中央執行委員會主席汪精衛氏は、新中央政府樹立に關して長文の和平宣言を發表した。これに對し翌三月

十三日、米内内閣總理大臣談として、重ねて新中央政府の支持を明らかにし、速かにこれを承認する用意あることを聲明した。次いで國民黨方面では、三月十二日から十五日までの四日間、上海に於て二中全會を開き、新中央政府成立に關する諸般の決議をなした。そこで残るところは中央政治會議を開いて、最後の決定をするだけとなつた。

かくて汪精衛氏は三月十七日南京に乘込み、新中央政府を生み出すべき中央政治會議は、三月二十日から二十二日まで三日間、南京で舉行

された。中央政治會議は新政府を生み出すまでの臨時的機關であつて、汪精衛氏の方から既成政府、在野合法政黨、及び社會上重望を有する人士を招待して組織し、從來國民黨がやつてきた一黨專制を放棄し、各黨各派合作の實を擧げんとするにあつた。議員は三十人で、各派合作ではあるが、國民黨が核心となり、國民黨が十人、臨時維新兩政府が各五人、蒙古聯合自治政府代表二名、在野各合法政黨代表四名、社會上重望を有するもの四人からなつた。政治會議の主な仕事は、日支新關係の調整方針及び中央政府樹立大綱を決定するにあつた。中央政治會議は豫定の如く三月二十日から南京中山北路の國際聯歡社で開かれ、汪精衛氏を主席とし、二十一日を以て終了した。還都は三月三十日と定め

られ、二十九日には臨時維新兩政府の解消宣言があり、三十日午前十時から南京國民政府大禮堂で、嚴かに還都の典禮が行はれ、主席各院部長が就任し、汪主席の還都宣言を朗讀して式を終り、めでたく新中央政府の成立を終つた。當日發表された國民政府の要綱は、政府の方針を示す重要なものであるから、左に掲げる。

- 一 善隣友好の方針に基づき、和平方針を以て中國主權行政の獨立完整を求め、以て東亞永久の和平、及び新秩序建設の責任を分擔する。
- 二 各友邦の正當權益を尊重し、並びにその關係を調整し、その友誼を増進する。
- 三 各友邦を聯合し、共產國際の陰謀、及び一切の和平攪亂の活動を共同防制する。

四 和平建國を擁護する軍隊、及び各地遊撃隊に對しては分別安輯し、並びに國防軍を建設し、軍政、軍令の大權を劃分し、以て軍事獨裁制度を打破する。

五 各級民意機關を設立し、各界の人才を網羅し、全國の公意を集中し、以て民主政治を養成する。

六 國民大會を召集し、憲法を制定し、憲政を實施する。

七 各友邦の資本と技術との合作を歓迎し、以て戦後經濟の恢復、及び産業の發展を圖る。

八 對外貿易を振興し、國際收支の平衡を求め、並びに中央銀行を重建し、幣制を統一し、以て金融の基礎を確立する。

九 税制を整理して人民の負擔を減輕し、農村

を復興して流亡を撫綏し、それをして各、生理に安んぜしめる。

十 反共和平建國を以て教育方針となし、並びに科學教育を提高して浮薄空泛の學風を掃除する。

新國民政府は、還都後間もない四月六日、重慶側の締結した條約は無効なる旨の國民政府令を公布、翌七日には全支那軍に對して即時停戦の命令を下し、超えて十日には在外華僑に呼びかけるなど、早くも内に外に活潑な動きを見せはじめた。

殊に、歐洲戦亂の全面的擴大に對處して、六月十三日、交戦國に對して、その軍隊と軍艦の中國國內よりの撤退を要請した如きは、新政府が從來歐米諸國よりの桎梏を脱し、東亞新秩序

を目ざす外交策を堂々列國に對して表明したものととして大いに注目されたのである。

この新國民政府に對して我が國は、阿部特命全權大使を派遣、日支國交修復の準備を進め、七月五日の第一回正式會議以後時を閑すること約五ヶ月、十一月三十日に至つて日華基本關係條約に調印を了したのである。これによつて帝國は、汪精衛氏を首班とする中華民國國民政府を正式に承認したわけである。また基本條約の調印に引續いて行はれた日滿華共同宣言の調印によつて、國民政府は滿洲國を承認し、滿洲國は中華民國國民政府を承認し、こゝに相携へて東亞新秩序の建設に邁進すべき日滿支三國の新關係が確立するに至つたのである。この國民政府が東亞新秩序建設の任務を分擔するものであ

り、第三國との國交上にも正當な主權を代表するものであることはいふまでもない。

こゝに新國民政府の大體の輪廓を述べることにしてしよう。

新中央政府の最高機關は中央政治委員會である。政府はこれに對し責任を負ふので、この點は重慶政府が黨に對して責任を負ふのと異つてゐる。中央政治委員會は最高の指導機關となすところあり、直接命令を發布したり、政務を處理したりするのでなく、その決議を國民政府に交付してこれを執行させる。こゝには各種の専門委員會が設けられてゐる。政治委員會には主席が一人あり、委員は二十四人乃至三十人であつて國民黨の中央執行委員、同監察委員、その他合法政黨の幹部、社會上にあつて重望を負有する

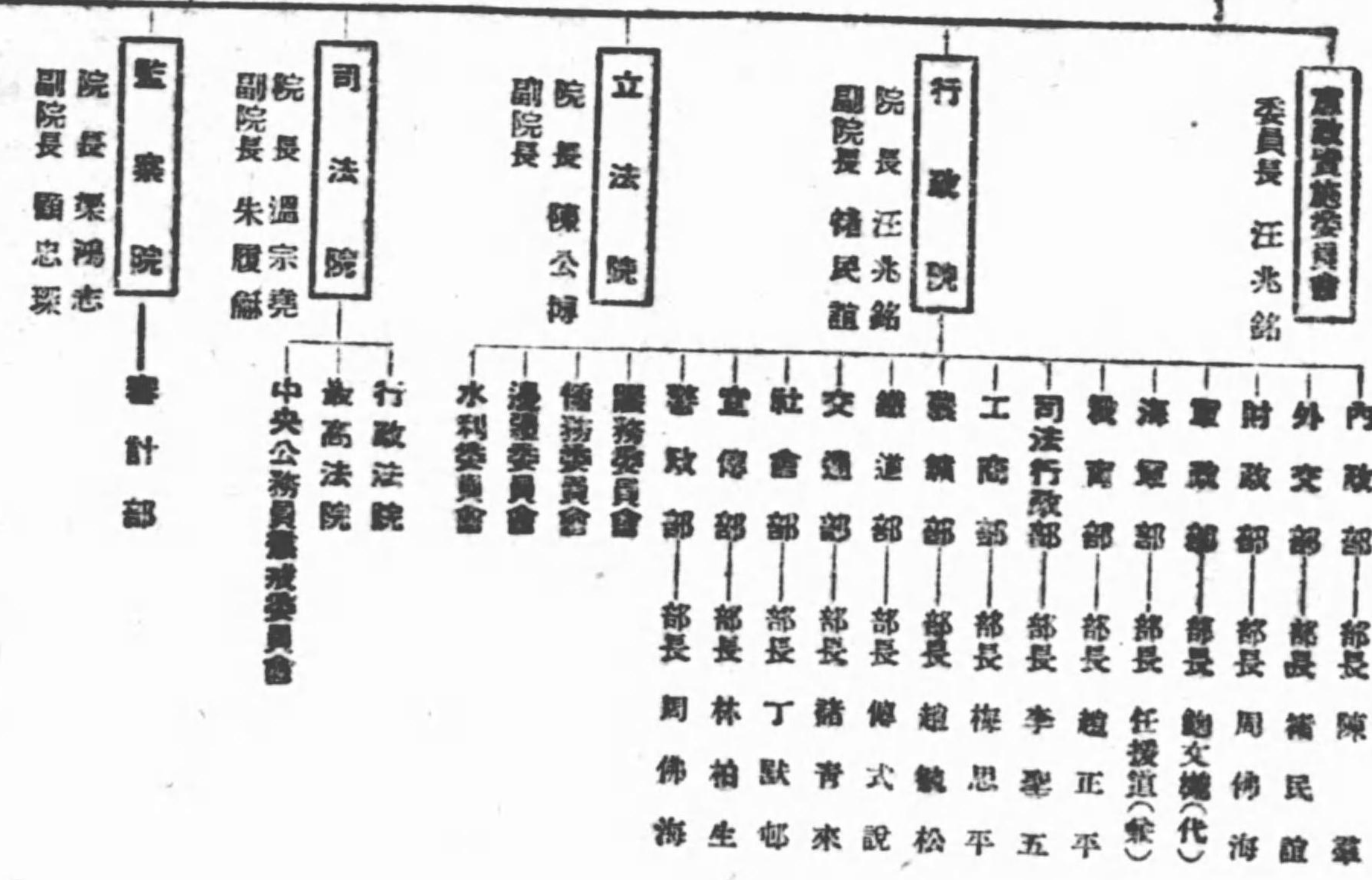
府政民國

會員委治政央中

主席 汪兆銘
 當然委員 (五院長及華北政務委員會委員長)
 汪兆銘、陳公博、溫宗堯、梁鴻志、王揖唐
 列席委員 (五院副院長四名)
 褚民誼、朱履道、江亢虎、顧忠琛
 指定委員 (主席、於中央執監委員會中ヨリ直接指定スル者)
 周佛海、褚民誼、陳慶雲、梅思平、陳、林柏生、劉郁芬、任援道、焦、陳君毅、陳耀祖、李聖五、葉蓬、丁默邨、傅式說、楊授一、鮑文樞、蔣叔章、李士羣
 聘請委員
 齊燮元、朱深、卓特巴扎布、殷同、高冠吾、趙正平、魏、趙維松、魏青來、趙叔雅、岑德廣

府政民國

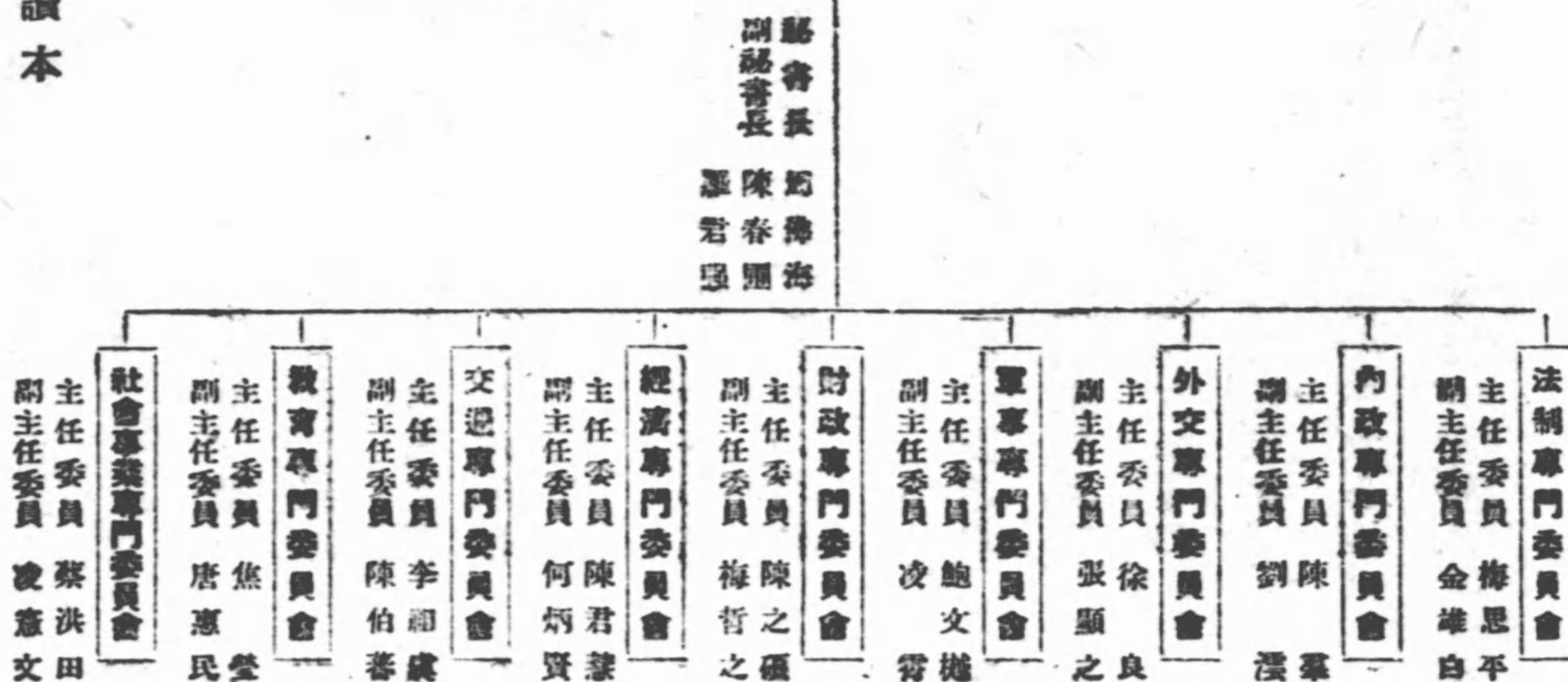
主席 汪兆銘
 副主席 曹汝霖
 文官長 徐世昌
 印務局長 李宜周
 文書局長 葉先嶠
 參事長 唐奇斌
 典禮局長 蕭奇斌
 總務局長 虞厚之
 參事 參事
 參事 參事



表統系織組

員委門專會員委府政央中

新支册讀本



人士となつてゐる。

國務を執行するために國民政府があり、黨と行政機關とを判然區別するために、中央黨部に屬してゐた宣傳部、社會部はこれを行政院の直轄に移した。國民政府の組織系統及び各院部長官は別掲の表の如くである。

北支は特殊の情勢にあるため、臨時政府の名は消えたが、その實體は華北政務委員會の名によつて残つた。

この委員會は河北、山東、山西三省、及び北京、天津、青島三市境内の防共、治安、經濟及びその他國民政府委任の各項政務を處理するもので、こゝには委員十七人乃至二十一人を設け、その中の一人を委員長とする。委員の中から五人乃至九人を指定して常務委員とする。その人

選は行政院院長が中央政治委員長に諮つて定めらる。華北政務委員會の機構は臨時政府の時と大差なく、司法部がなくなり、部が總署と改められた。即ち内務、財政、治安、教育、實業、建設の諸總署と政務廳、秘書廳である。

首腦部の人選も當初と大體變らないが、さきに委員長の王克敏氏が辭めて王揖唐氏がこれに代つた。

新中央政府は成立後未だ時日を経過してゐないから、施設も今後に俟たなければならぬが大體の方針だけは知ることが出来る。

外交方針

先づ新政府の外交方針について述べてみると支那にある第三國の既得權益についてはこれを

尊重するし、原則として第三國はすべて友邦としてこれを俟つことは當然であるが、しかしその間自ら差が出てくる。といふのは、和平建國を以て趣旨とする新中央政府に賛成するものは當然これを友として遇するが、抗戰建國を趣旨とする蔣政權に賛成するものはこれを友として待遇するわけにはゆかない。

また東亞新秩序については、第三國の間いろいろと誤解があるやうで、日本が支那を壟斷し、列國を閉め出すやうに考へてゐるが、これは大きな誤解である。このことは既に日本側からも度々聲明された通りであつて、東亞新秩序の意味は、東亞と國際間に平等の關係を確立せんとするものであり、東亞に加へられた不當の束縛を脱せんとするに外ならない。故に東亞新

秩序は、世界に於ける和平と平等の友を網羅し共に繁榮の利益を享けんとするものである。故に東亞新秩序の主義は開放的であり、大同であるとなしてゐる。

この對外的第一歩として、第一の努力を租界回收に向けてゐる。その理由としては次のやうに述べてゐる「租界の回收あつてこそ、帝國主義者が重慶政權を引張つてゐる糸を切斷することが出来るし、買辦階級の活動根據地を消滅せしめることが出来る。かくして國家を統一せしめることができ、全面和平にまで到達せしめることが出来る」と。

日本との關係

次に日本との關係については、日本は領土的

野心なしと聲明してゐるし、主として今後は日支經濟合作に對し重點が置かれるであらう。これについて新政府では、日支經濟合作の大綱を左の三つとしてゐる。

- 一 有無相通の貿易を行ふこと。
- 二 日支の共通利害、即ち日支相方が共に利を享けるものであること。
- 三 合作と合辦の關係を匡すこと。即ち合作と合辦とは往々混同されるが、これは必ずしも不離のものでなく、合作は必ずしも合辦を要せず、合辦は必ずしも合作の要求に合しない。また企業については、個人企業はもとより返還さるべきであり、國營事業も亦事變前の状態に恢復さるべきであるとなしてゐる。即ち日支間に於ては、支那は主として日本に原料を供給

し、日本からは技術と資本を仰ぎ、支那の産業開發を行ふが、主權を損せず、努めて平等互惠の經濟提携を實行し、共存共榮の目的を達すべしとなしてゐる。

日支經濟合作の行はれる主要な地域は第一に北支那であるが、これに關し、華北政務委員會當局の意見を紹介してみよう。

「物資については、日滿と支那、支那でも北支と中南支、また北支内部でも物資の疏通は甚だ圓滑を缺いてゐるから、日滿支ブロックが、有無相通じ、長短相補ふためには、經濟ブロック内に於て、一定の計畫を定め、しかる後にこの計畫を一致實行すれば偏倚不平均の弊がない。物動計畫の歸着點は配給である。配給には合理化を要する。然しこの合理化で注意すべきこ

とは、合理化は各國家、各地方の民情、習慣と環境によつて適當の標準を定むべきで、千篇一律に、一定の型をどこにでも適用せんとすれば大きな弊害を惹起する。北支の開發事業は、日本と提携協力し、平衡して進むべきである。北支各鑛山工場にして日本軍の管理下にあるものは、早晚現業者に返還されるだらうから、この際には、各現業者は當地の環境を斟酌し、これを合理化し、逃避してゐる人才と資本とを吸収すべきである。かくて日支兩國の人才と資本として通力合作せしめると共に、互ひにその範圍を守り、均衡的に發展する機會を有せしむべきである。」

對内政策

制憲問題 新政府の對内政策には、いろいろの方面があるが、第一に擧げらるべきものは制憲問題である。新政府は當初から國民黨の一黨專制に反對し、各黨各派の合同による政治を主張し既に中央政治會議及び中央政治委員會の中にも各黨各派の代表者を加へたのであるが、憲法を制定して速かに憲政を實施することを主張し、そのために新政府内に準備委員會が設けられてゐる。この點では重慶側でも、新政府の憲政運動と、共產系の憲政促進により、本年十一月に國民大會を開き、憲法を制定して憲政に乗出すこととなり、各、自派に有利に大會を導かうとしてゐるので、制憲を目ざし、新政府と重慶と中國共產黨とが、各、微妙な關係に立つに至つた。

財政方針 新政府の財政方針としては、左の八項が挙げられてゐる。

- 一 金融の安定 現在市場に流通してゐる各種の通貨はそのまま使用させ、人民をして損失させないやうにし、しかる後改革統一を圖る。
- 二 公債信用の維持 以前の内外債を承認する。
- 三 國稅の整理 關稅、鹽稅、統稅の整理。
- 四 苛細な稅捐の除去。
- 五 遊資の疏導 遊資を生産事業に向ける。
- 六 貿易の調整 入超に對し、需要供給を調節し、外國爲替を平衡にし、資金の流出を減少させる。
- 七 民生の調節 貨物の流通を計り、商人の

暴利を防ぎ、災民の更生を期す。

- 八 生産の補助 農民貸附金制度、農村改良設備等の方法を講ず。
- 農業施設 農業國である支那としては、農業施設は最も重要であるが、現下の施設方針としては、左の四項が定められてゐる。
- 一 國權を擁護し、公私の産業を保障する。
 - 二 友邦資本と技術の合作を歓迎し、以て國內資源を開發する。
 - 三 流民を安撫し農村を復興する。
 - 四 人才を養成し、生産技術を改良する。
- また農村の復興建設に最も必要なのは治水であつて、殊に黄河の治水である。黄河は蒋介石軍により中牟で決潰したまゝ、既に二年半を経てゐるが、もし一旦このまゝで氾濫すれば大變だか

ら、速かに豫防の方法を講じなければならぬ。

難民救済 更に戦火による災民の救済が目下の急務であつて、そのため特に振務委員會といふのが設けられ、この過渡期間に於ける民力恢復に當ることになつてゐる。その方針として發表された概要は、振濟工作は極めて普遍的に且つ積極的主動的に行ひ、更に民食問題、一切の農民勞働者の政治問題、一般失業問題をも取扱ふ。振務實行の方法は、臨時急を要するもの以外は、救済の必要があればこれに仕事を與へて救ふ方法による。

教育方針 教育の方針としては、最近支那で問題になつてゐる支那の獨創的な、自主的な教育をもつことを主張してゐる。今後の支那の教育は、必ず民族固有の文化と道德を保持し發揚

しなければならぬとし、支那自身のもものは一切が支那の國情に適合しなければならぬ。無論外來文化を排斥拒絶するのではないが、たゞこれを採取吸収する場合の依據とする。以前の如き植民地的教育、教會式の教育に對しては一切排斥除去する。また從來の排日教育については汪精衛氏も「今後の支那はもとより善隣友好を以て教育方針となさねばならない。日本は殊にその國民をして侵華侮華の傳統思想を放棄し、以て兩國永久和平の基礎を確立せねばならぬ」といつてゐる。

次に今後の支那の教育は必ず實際の民衆生活に向くべしとし、教育制度は新規播直しとし、大學は量より質を重視し、全國主要な地點に三個か五個の國立大學を設ける。更に力を盡して

職業教育を推廣し、遍く初級の徒弟學校、中級の職業學校或ひは職業養成所、高級の専門學校等を設け、全國の青年をして、みな一技の長あらしめるやうにせねばならぬとしてゐる。即ち國本教育と民生教育とが二大方針である。

社會施設 社會施設として國民政府は新たに社會部を設けた。これは日本の厚生省のやうなものだが、國民黨中央社會部を繼承したため、黨中央社會部の主要任務である民衆運動に關聯があり、過去一ヶ年餘に亘り、上海で重慶側の指導する民衆運動と困難なる奮闘を續け、十名以上の死傷者を出した。故に新政權の社會部もまた民衆運動をその主要工作とする。その全部の使命は

一 民衆團體の指導監督

- 二 全國民衆の組織訓練
 - 三 社會政策の施行
 - 四 社會事業の推進
- である。かうして新政府の施政方針は大體の決定を見たのであるが、近くこれらは實行に移されるであらう。

北支の特殊事情

北支とは？

今春新中央政府が南京に成立してから、北支の重要性が新たに取上げられるやうになつた。何故であらうか？

支那全土の中でも、日本や滿洲國とあらゆる點で深いつながりをもつ北支の諸施策と、この北支や蒙疆をも宗主權の中についで、全支の正當政府になつた新中央政府の諸施策とは、ピッタリ結合一致せねばならないからである。北支の價値を強く生かしてゆくことと、中央政府

の機構を固め、勢力を伸ばしてゆくこととの間の矛盾撞着があつてはならないからである。

北支の最も特徴的な條件を擧げるなら、それは北支の地理的位置が、日本、滿洲國との間に國防上、經濟上切り離すことの出来ない強度の結合地帯を形づくつてゐるといふことである。北支といふ地理的概念は必ずしも一定してゐない。例へば、曾てのいはゆる北支五省を指す場合と、この五省のうち綏遠、察哈爾兩省に山西の北部を含めた現在の蒙疆自治聯盟を切り離し、前の臨時政府、今日の華北政務委員會の統

治區域たる河北、山東、山西三省を指す場合とある。更に北支の概念を押しひろめて、秦嶺、大巴山、伏手山、雄山等の諸山脈と舊黄河以北の地方、即ち山東、河北、河南、山西、陝西、甘肅の六省までも包含する場合もある。

北支の地理的概念はまち／＼であるが、それが何れにしても、滿洲國、朝鮮、日本内地と、或ひは接壤し或ひは一衣帯水の隣接關係につながれ、わが國防第一線をなしてゐるといふ根本事實には、いさゝかの變化もない。

殊に北支蒙疆が境を接する他の部分を考へるなら、北部には赤色外蒙が大きく蔽ひかぶさつて來てをり、蒙疆線はそのまゝ防共線を形成してゐるのである。また西北は山西、陝西、甘肅を経て、これも完全に赤化された新疆省に通じて

をり、この路線は現在コミンテルンの對支工作における最も重要な赤い輸血路となつてゐる。

この路線の要衝たる陝西省の北部延安には、陝甘寧邊区政府と稱する赤色政府が置かれ、中國共産黨の策源本部となつてをり、こゝから抗日と赤化の渦浪が、全北支に打ち寄せてきてゐることは識者の知るところで、これが我が國の立場から北支を規定する大きな特殊事情でなくて何であらう。

北支の共産軍と反共對策

支那共産軍は、先づ正規師三箇師團をもつて前記陝西省北部の赤色地區から、山西省の東北部にある佛教の聖地五台山地方に侵入して來たのであるが、昭和十三年の春には、早くも北支に

基地をもとめて、河北、察哈爾の一部を含む地

帯に、晋察冀邊区政府と名づける赤色政権をつくつた。もとより政府、政權などと名づけるのもをこがましいやうな土匪の巢窟式のもので、それは日本軍の討伐を怖れて地下組織的につくつた外形上貧弱極まるものではあるが、その引いてゐる根の深さと影響力に至つては、必ずしも馬鹿にならない代物である。

北支共産軍は、皇軍の討伐の間隙を巧みに縫ひ、風の如く現はれ、風の如く去るパルチザン式の戦術によつて、漸次その勢力を北支各地に擴げてきた。即ち河北、山西の各北部、河西南部、山東の西部等に侵入し、獨特の政治工作と並行して無智な奥地民衆を巧妙に宣傳煽動し、彼等の組織獲得にダニの如き執拗な努力を拂ひ

つゞけてきた。

共産軍の武力そのものは、最も精強と言はれる共産正規軍においてすら、わが武威の前には殆んど問題とするに足りない。皇軍は地勢、氣候、風土、食糧、輸送等の前に横たはるあらゆる悪條件と闘ひながら、共産軍の討伐に不斷の活動をつゞけてきた。従つてこの討伐に次ぐ討伐の前に、共産軍はその勢力を深刻に痛めつけられ、大いに弱化したことは争へない。しかし共産軍の最大の武器は、武力そのものよりも、民衆の無智と窮乏につけ入る政治的思想的煽動と經濟的懐柔であつて、これは或る程度の成功を收めてゐる事實を認めなければならぬ。

この點、たゞ一途に土崩瓦解してゆく舊國民黨系軍隊などとは比較にならない。共産、國民

兩抗日軍の勢力は全體としては皇軍討伐の前に後退衰滅しつゝあるが、しかも共產軍と國民黨系軍隊との比重だけを切り離して見る時は、前者の方が遙かに旺盛であつて、抗日核心勢力としての共產軍の流しつゝある害毒は、決して過小に評價さるべきでない。

共產黨と共產軍とは、その頭部を一體とした二重組織であるが、これが抗日の最も精強にして悪質な中核を形成してゐる。今次事變勃發の元兇も亦彼等であれば、コミンテルンの指導下に事變を長期戦に引きすりこみ、和平救國の妨害に狂奔しつゝあるのも共產黨である。

皇軍が共產黨軍を最悪の敵として、これが絶滅に多大の犠牲と勞苦を拂ひ、治安肅正のため戦ひつゝあるのはそのためである。また臨時

政府から汪政権に至る親日政権の全部が、反共救國を以て立國の旗幟としてゐるのもそれがためである。更に北支が反共滅共の最要衝地域として、地理的に重大特殊事情を構成し、現地のみならず、東京においても南京においても、このことを公認されてゐるのも右の事由に基づくものである。

更にまた北支における最大の民衆組織として新民會が組織され、華北政務委員會と表裏一體の團體として、今春軍宣撫班をも合體し、思想工作を一元化して、民心安定に協力しつゝあるのもこの間の事情を物語るものである。共產黨の巧妙な民心獲得仕事を思ふ時、これが對策的立場にある新民會の今後の使命は極めて重大であると言はねばならない。北支が曾て容共抗日

に特徴づけられた歪曲された三民主義、重慶國民政黨の民主主義的理念と實踐とに代へるに、王道理念の體系たる新民主主義、新民會を以てしてゐる理由も十分首肯し得るところであらう。

北支の經濟事情

國防と共に北支を特色づける他の要件は、日滿北支の經濟的結合關係である。日滿兩國の北支に對する經濟的相互關係は、支那全體を對象とする場合よりも、遙かに高度であり、且つ強度である。それは前に記したやうな、北支の國防上の必要に一本の根を深く垂れてゐると共にまた他の根を、北支自體の資源關係、交易關係等にも置いてゐるのである。即ち、北支の經濟建設が何をもつて根本方針としてゐるかを簡明

に現はすなら、それは日滿兩國と北支とを一本の革帶で強く結び合はした、綜合的國防經濟を一日も早く打ち立てること、この有機的結合による暖い血の交流を通じて北支自體の經濟生活に更生繁榮をもたらし、北支住民に安居樂業の實を與へ、反共和平、建國の目標に具體的結實を招來すること、これである。

この方針の下に、日本は綜合國策會社として北支開發會社をつくり、その下に日支合辦による多數の子會社を設立して、石炭、鐵、鹽など重要資源の開發に従事中である。一方北支の經濟統制機關として日華經濟協議會を常設し、興亞院華北聯絡部は軍の協力を得て、北支經濟の積極的指導に當りつゝある。

日滿北支の經濟關係を、交易の方面から見る

時、北支の輸出貿易において日滿の占める比率は、事變前の昭和十一年度に三六%であつたものが、昨十四年度には四一%を示し、更に輸入にあつては、昭和十一年度は四八%であつたものが、十四年度には六二%に激増してゐる。

最近北支の對外貿易上の特徴は、聯銀の爲替集中制度によつて、第三國貿易の輸出入にバランスがとれてきたことであり、また日本との關係においては、曾て北支が日本の消費材輸入市場として特色づけられてゐたのに、今日では、石炭その他の日本への大量輸出によつて、生産材供給市場として、重要役割を演じるやうになつたことである。

現下の主要課題

日滿北支の經濟的結合關係を實證する他の重要事實は、今日北支唯一つの通貨となつた聯銀券が、日本銀行券に等價リンクして、いはゆる圓元バーを現出し、相互の緊密な骨肉的依存關係を如實に示してゐることである。

しかしながら、北支の經濟關係は、資源開發も、物資の需給交易も、通貨の流通も、種々の困難なる條件の中で戦はれつゝも、一歩々々勝利に向つて刻苦努力が拂はれてゐる。

その理由とするところは、大局的見地からこれを大摺みに言ふならば、北支が今、舊秩序から新秩序への歴史的な大轉換期に立つてをり、行政も治安も經濟生活も、大きな變異の渦中に立つてゐるためである。

即ち、北支の新秩序への移行に對しては、從

來北支の資源開發と輸出入貿易とに、大きな役割を演じ來つたところの英米佛等の、公然隱然の反對と非協力とがあり、また他方、共產軍を中心とする抗日匪團の北支經濟建設に對する妨害等が、皇軍討伐の間隙を縫つて今なほ行はれてゐる事實を無視できない。即ち、北支に於ける資源の開發、交通輸送網の整備充實、食糧物資の供給、物價の適正、或ひは通貨の安定等もろもろの經濟現象の上に、多かれ少かれ種々の困難と障害が現はれてゐるのは、それ／＼各個の特殊な事情と理由に基づいたものではあるが、いづれもみな舊秩序より新秩序への移行といふ歴史的、劃時代的事件に内在し、或ひは附隨するものである。

北支の物價を北京について見ると、昭和十一

を組織して、低物價の内地から、高物價の北支への物資輸入に合理性を附與しようとして計畫されてゐることである。

日本滿洲方面よりする一般旅行渡來者の極度の制限、聯銀券以外の圓系通貨の流通禁止、不急新規事業の制限など、一聯の施策によつて聯銀券の放出を抑制し、回收促進を講じつゝあるが、これに法幣對策等も加味して實施される結果は、必ずや近き將來聯銀券の強化と物價の一定引下げが實現されることと期待されてゐる。

北支の國防經濟新建設の重要性を認識せず、各種の經濟金融攪亂行爲を敢へてする者に對しては、それが日人たると華人たるとを問はず、取締機關をして嚴罰を以て臨ましめる方針が確立された。更に現地軍當局は、在留邦人中、興亞

聖戰の意義を理解せず、國策に悖るやうな行爲ある不良分子に對する取締を嚴にし、在留邦人全體の自肅自戒を要望する警告を發し、六月十日には支那派遣軍總司令部並びに支那方面艦隊司令部の名によつて、聖戰目的完遂に邁進するための軍律を發布施行する等、秩序確立を目ざして大奮の努力が集中されつゝある。

以上は北支の特殊事情を樞軸とした最近の概観である。事變既に四年、しかも異常なる歴史的激動の中に面貌を變へつゝある歐洲、否世界の變局と睨み合はせて北支の實狀を見る時、日本の高度戰時體制の確立を分擔し、且つ大東亞共榮圈建設の一根幹としての北支の重要性がいよいよ倍加されて來てゐる事實に目を蔽ふわけにゆかない。

工

業

一、事變前の工業構成

近代工業の特質が工場制機械生産にあることは周知の通りであるが、支那では、十九世紀の末頃から工場制機械生産の方法が採用されたにもかゝらず、今なほ全工業生産品の三分の二は手工業的生産方法によるといはれ、近代化の程度は極めて貧弱である。

事變直前の状態を知る詳細な資料はないが、民國二十三年（昭和九年）現在の軍事委員會の調査によれば、支那の民族資本工業は工廠法適

用以上の工場（従業員三十人以上であつて動力を有する工場）に就いて見ると、工場數二千四百三十五、投下資本額四億元、生産額十二億八千萬元、労働者數五十萬人となつてをり、一工場當りの投下資本額は十七萬元弱となつてゐる。これが支那の近代的工場なのだから、いかにその經營規模が小さく、機械その他の設備が貧弱であり、また資本の有機構成度が低いかはこれによつても知ることが出來よう。

支那には民族資本工業の外に、日・英・米等の外國資本の工業があり、その投下資本額は民族

資本工業の約倍ぐらゐある。これらの外國資本工業は、單に投下資本額が多いばかりでなく、重要産業部門を占め、經營技術が優秀であり、民族資本工業のとても及ぶところではない。

工業の種類は、全工業の約九〇%が、紡績を筆頭に製粉、製油、煙草、マッチ等の輕工業によつて占められ、機械その他の生産手段による生産は殆んど見るべきものがなく、これらは皆外國に依存してゐる。地域的分布を見ると、極めて偏在してゐて、上海、天津、武漢、廣東、青島の五大開港場に全支工場の約八〇%が集中してゐる。外國資本工場の殆んど全部がこゝに集中してゐることは勿論だが、民族資本工場だけに就いて見ても、その五〇%以上がこの五大都市に集中してゐる。

以上が支那工業構成の骨組であり、又その一般的特質でもあるが、これによつても分る通り、支那民族資本工業の生産能力は極めて低位にあり、従つて支那に豊富に存在する各種工業資源も、支那の近代工業に役立つことなく外國に輸出されてゐたばかりでなく、工業原料を外國から逆輸入してゐたことすらあつたのである。更にまた、生産能力が低いために支那の工業労働者は極めて低い生活費しか保證されず、従つていつまでも農村經濟から分離し得ないでゐることも、支那工業の特質の一つであらう。

以上の支那工業の特質は、支那の工業を理解する上の基礎知識であるが、同時に今次聖戰の目的たる日支經濟提携による新東亞建設の方向——支那の植民地性と舊き生産關係よりの解

放——に幾多の示唆を與へるものである。

二、破壊より復興へ

破壊状況

前述の通り支那工業の約八〇%は、上海、天津、武漢、廣東、青島等の沿岸諸都市に集中してゐるから、戰禍による直接的破壊は甚大なものがあつた。先づ支那第一の工業中心地上海から見よう。

統計がまら／＼で正確なことは分らないが、舊上海市社會局が昭和十二年十一月に推定した被害統計によれば、全市工場總數五千五百二十五工場の中、二千九百九十八工場即ち約五五%が破壊されたが、その後更に南市の陥落によつ

て被害は増大し、結局上海全市の損害額は約八億元に達したと報ぜられた。これを地區別に見れば被害の無かつたのは佛租界だけで、共同租界は日本軍警備區域であつた東部に工場が集中してゐたために七〇%の被害を蒙り、支那管區は僅かに浦東その他が五〇%の被害率で終つたのみで、閘北、南市も全滅となり、全市を通じて戰前の僅かに二六・五%の工場が残存するのみとなつた。上海の日本紡績の被害は支那人工場程大きくはないが、豐田紡が最も甚だしく大半は破壊され、次いで浦東の日華紡も亦甚大な損害を受け、被害總額は巨額に達した。

上海以外の、揚子江三角地帯に於ける諸都市の工場被害は、上海ほどではないが、無錫、常州等では戰鬪による被害は戰前能力の約五〇%

と推定され、小工場では盗難による被害が甚大であつた。

次に北支工業の中心地である青島では、内外棉、富士、公大、日清、大日本、上海、同興、豊田、國光等の日本紡績工場が、支那軍の放火爆破により一夜にして全部灰燼に歸し、その損害は實に巨額に達した。天津は砲火による直接的被害は少かつたが、大半は操業を停止し、昭和十二年末に於て、大約五三%の生産減退が起つてゐたといはれる。

武漢三鎮に於ては五百十六工場のうち、四一%は奥地に移轉し、一二%は意識的に破壊され、残りの四七%が再使用可能といふ状態であつた。その他各地に於ても大なり小なり工場設備の破壊が行はれた。

以上は主として戦争による直接的被害だが、操業停止その他の間接的被害を加へれば、その損害は莫大な額に上るであらう。

復興状況

右に述べたやうに、破壊された工業の地域は新政府下に於ける中樞地であり、また軍作戦地域でもあるので、先づ何よりも工場を復活し、難民を救済し、治安維持の確保を圖らねばならなかつた。そのため次のやうに應急的措置がとられたのである。

即ち、占領地域内にある經營者を失つた工場或ひは復興擔當者をもたない工場は、一應軍管理の下に置くか、日本側業者をして委任經營を行はしめた。また支那側經營者の實情によつて



は、日本側から技術、資本の援助を與へて、日支合辦の形式により日支共同經營とした。かくて支那民族工業は、比較的小資本ではあるが續

新支那資本

續と更生の道を辿り、一方日本資本の進出提携は著るしいものがあつた。ではその復興の一般状況を見よう。

上海では復興は着々と進行し既に舊態を取戻さうとしてゐる。殊に租界内の復興振りは目ざましく、昭和十三年には事變前よりかへつて工業就業者数を増加してゐる。租界内で最も被害の甚だしかつた東部でさへ、主として日本人の手によつて八〇%の復舊振りを示してゐる。支那管區では浦東の復興が最もよく行はれ、南市もまた漸次回復に向つてゐる。日本紡績の被害も支那軍が掃されると共に操業準備に着手し、昭和十三年末には全部運轉を開始するまでに回復した。

北支では、青島の紡績業の被害は甚大であつ

たが、その復興は第一期計畫が既に昨上半期に完成し、大體事變前の六割程度の復興を示してゐる。天津は直接的な被害が無かつただけに紡績業に於ては青島に代つて北支第一となり、事變前の殷賑を遙かに超える状態にある。武漢三鎮でも英國系、日支合辦等主要な工場で復舊したもの十一を數へ、この外工廠法適用以上の工場八十七の復興を見た。日本人小工業の進出は戦前の四倍に達してゐる。

三、復興より建設へ

戦禍によつて破壊された施設が復興するに伴つて、支那の工業は新たなる建設の段階に進んだ。

即ち北支では日本の指導の下に、防共地域と

しての政治的使命と、生産力擴充といふ經濟的使命とを果す目的から、北支（蒙疆を含む）綜合開發計畫が立てられ、石炭、鐵、石炭液化電力、鹽等は統制企業とし、紡績その他は自由企業とする方針が決定した。かくて、昭和十三年十一月に、統制企業の親會社として北支那開發株式會社が設立されて、子會社の整備に當ることとなつた。また自由企業に就いても、新東亞經濟建設の綜合的立場から大體次のやうな原則が指示された。

- 1 日滿支の經濟的相剋を避けること
- 2 二重投資の弊を生ずる企業は抑制すること

3 同種企業の濫立的現象を防止すること

この大綱に基づいて、更に紡績、毛織、製粉

その他の各種の自由企業に就いて、それ／＼具體的な統制方針が決定されたのである。

かゝる統制の企圖するところは、支那民族資本は日本資本の進出によつて少しもその發展を阻害されることなく、寧ろ支那民族資本の復興を誘致し、且つそれに政治・經濟的安全性を附與することによつて日支經濟提携を促進せんとするにあつた。去る三月十八日、支那派遣軍總司令官の聲明によつて、軍管理工場を支那人企業家の手に返還するものも亦これと同一趣旨によるものである。

以上は、政治的に、經濟的に、軍事的に特殊地域たる北支に於ける統制の方針であるが、中支でも亦同様で、重要産業は昭和十三年十一月に設立された中支那復興株式會社によつて統制

されるが、その他は自由企業とされてゐる。

では右のやうな方針に基づいて工業建設は如何に進められてゐるか、統制企業に就いて先づ北支からその状況を見よう。

北支

製鐵業 事變前には、豊富な鐵礦資源にもかかわらず、零細な土法採掘（手掘り）やマニユファクチュア（工場制手工業）が大部分を占めてゐた。石景山煉廠などは二十年間も閉鎖されてゐた。事變後、鐵礦の開發は、昨年七月、日支合辦による龍烟鐵礦株式會社が設立され、銳意開發事業に努力してゐる。製鐵は石景山製鐵所が昭和十三年十一月以來、陽泉製鐵所が十四年六月以來、太原製鐵所が十四年十一月以來、

それ／＼作業を開始し相當な成績をあげてゐる。

電力事業 事變前に於ける電力は自家發電が大きな割合を占め、電氣事業は著るしく立後れてゐた。發電設備は各地に孤立的に存在し、工業電力の需要よりも電燈をその目的としてゐたのである。現在北支に於ける電力事業は、昭和十四年十一月、北支開發の子會社として華北電業株式會社が設立され、本年二月から業務を開始し、差當り北京、天津、冀東地區の發電・送電・配電を經營し、その他各地の軍管理電燈廠の受託運営に當つてゐるが、將來は北支全域の電氣事業の統制に進出すべき使命を持つてゐる。

鹽業及び曹達工業 北支に於ける工業鹽は、

業、工業、運輸、通信等に關するものであるがそのうち工業に關するものは次の三會社である。

華中鹽業株式會社 この會社は昭和十四年八月設立され海州鹽の開發に當つてゐる。從來主として貯鹽の買付、搬出に當つてきたが、今後は鹽業家に對する投資、融資及び新鹽田の開發に向ふ豫定といはれる。

華中蠶絲株式會社 この會社は中支に於ける機械製絲業及び蠶種製造業を統制經營するため、昭和十三年八月設立されたもので、目下無錫、蘇州、杭州、海寧縣長安鎮、嘉興等に合計約二十の製絲工場を運営してゐる。

華中水電株式會社 この會社は中支に於ける電氣事業と水道事業を一貫的に統制經營せんと

從來興中公司鹽業部が主として經營してきたが、昭和十四年八月、北支開發の子會社として華北鹽業株式會社が設立され、長蘆鹽(塘沽附近の鹽區)の開發に當つてゐる。又近く軍管理工場として興中公司が委任經營に當つてきた永利化學工業公司塘沽曹達工場が同社に統合される。北支に於ける鹽業はこの外に山東鹽業株式會社(昭和十二年二月設立)があり山東鹽の開發に當つてゐる。

中 支

以上が大體北支開發の子會社(支那法人、日支合辦)であつて工業部門の開發に従事してゐるものだが、中支では現在までに中支振興の子會社として十二會社の設立を見た。これらは鐵

するもので、昭和十三年六月に設立された。現在上海方面の電氣營業地域は上海市の閘北、中心區、南市、浦東、真茹、吳淞で、電燈戸數約六萬、電力戸數約二千、電熱戸數約五百に達してゐる。なほ營業地域は上海のほか、委任經營として南京、杭州、鎮江、漢口、安慶、常州、蕪湖、松江、揚州、九江に及んでゐる。

水道施設は閘北、南市、浦東の三ヶ所に別れ、毎日の配水量は委託經營分を合すると六百萬二十萬立方米を超えてゐる。なほ委任營業地域は杭州、鎮江、南京、漢口、武昌に及んでゐる。次に自由企業について一瞥すれば、北支では紡績、製粉、セメント、製紙、毛織、煙草、金屬機械工業等が、或ひは軍管理工場の委託經營、或ひは日支合辦の形態に於て著るしい發展を遂

げてゐる。中支でも同様で、上海について見れば、事變前日本人工業は殆んど紡績一色に限られてゐたのが、事變後、大は製絲、製粉、煙草等から、小は卵、豚毛、茶、桐油等の土産品加工業或ひは清涼飲料水、自動車、木材、セメントその他電球、ゴム等の雑工業に至るまで日本資本の進出を見るに至つてゐる。

X X X

以上に略述したところによつて、事變下支那の工業が日支經濟提携の原則の下に、新支那工業建設への歩みを續けてゐることを察知出来るであらう。

鑛

業

支那は世界の寶庫といはれる。四百萬方哩に及ぶその廣大な地域内には、石炭、鐵をはじめ、タングステン、アンチモニー、錫等の重要資源を藏してゐる。ところで我が占據地域内の鑛産資源は一體どんな状態なのであらうか？

蒙疆、河北、山東、山西、河南を含む北支一帯には、石炭が壓倒的に多い。鐵も豊富に埋藏されてゐる。その他、金、銀、銅、鉛、亞鉛、アルミニウムを始めとし、ソーダ、石墨、石膏、硝石、硫黄、燐、石棉、雲母、螢石等がこの地域内に埋藏されてゐる。

新支那讀本

江蘇、浙江、安徽、湖北の中支では、石炭が最も多く、鐵がこれに次いでゐる。

事變前に開發されてゐたのは、主に石炭と鐵とであつた。炭礦の數は二十餘で、河北、山東に最も多く、鐵山の數も約二十で、安徽、湖北に多い。採掘方法は、舊式のいはゆる土法採掘によるものが多く、従つて生産額も貧弱で、年産石炭は二千萬噸、鐵は百三十萬噸程度である。このうち石炭の約八三%、鐵の八六%は、現在皇軍の占據してゐる地域から産出してゐたのであつた。

事變の勃發によつて多くの鑛山は、或ひは破壊され、或ひは設備を運び去られたので、新支那建設のためにはその復興が焦眉の急務であつた。昭和十三年十一月、北支開發、中支振興兩會社が設立され、新支那の建設は着々と成果を擧げてゐるのであるが、次にこれら鑛産資源の復興と開發狀況の一斑を述べることにしよう。

一、北支方面

北支の鑛産資源は、鐵、石炭を主とし、そのほかに、金、鑛土頁岩、タングステン、螢石、石棉、雲母等がある。中にも石炭は埋藏量二千億噸と稱され、最も重要視されねばならぬものである。

(イ) 石炭 蒙疆北支に於ける主なる炭鑛を

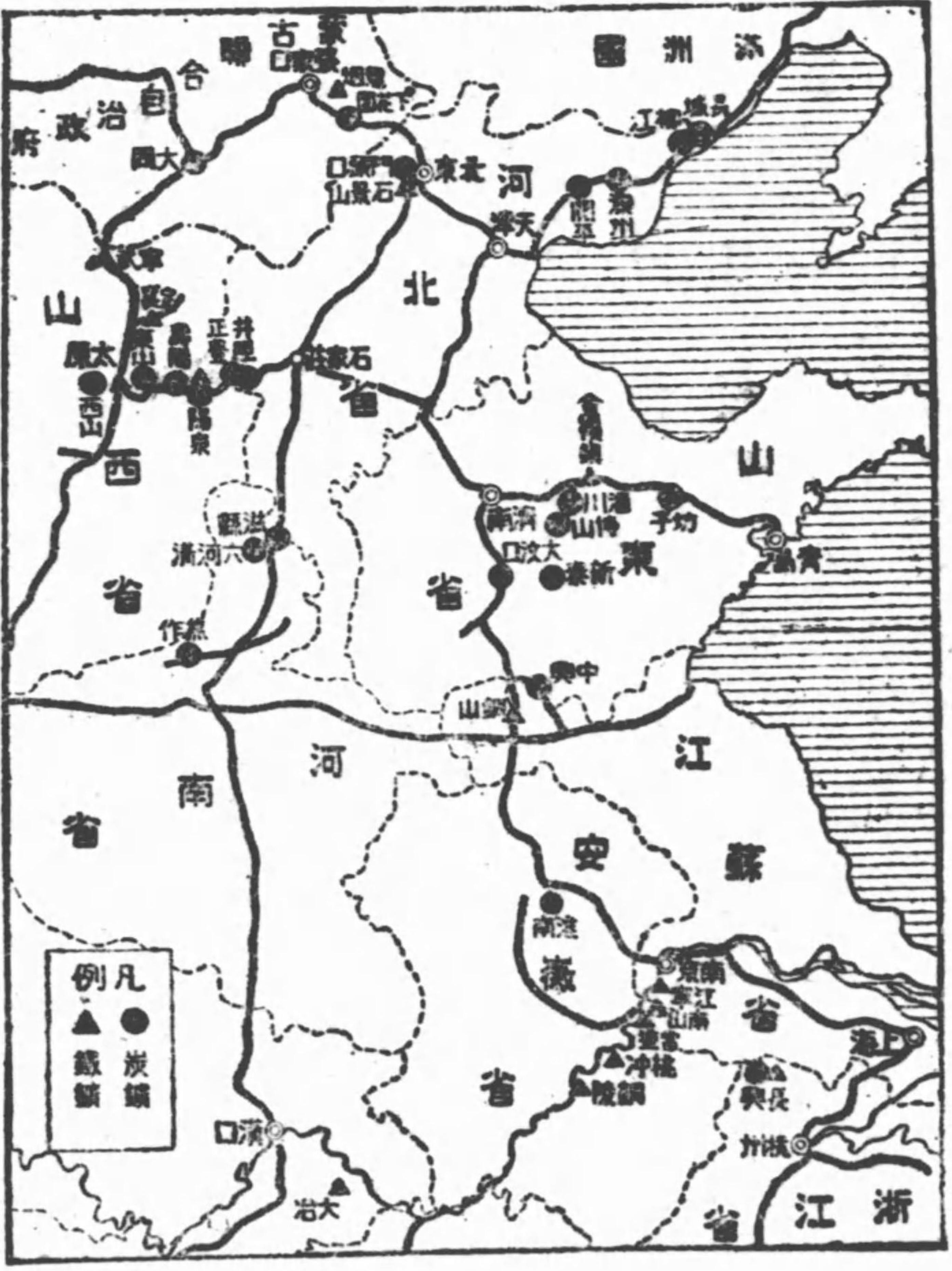
あげると、大同、下花園、河北省長城、柳江、開灤、門頭溝、井陘、正豐、磁縣、山東省博山、淄川、大汶口、新泰、中興、山西省陽泉、壽陽、西山、河南省六河溝、焦作等で、總埋藏量二千億噸と稱せられる。これは全支石炭推定埋藏量の約八二%に當るものである。

わが占據地域内の軍管理炭鑛の經營管理は、興中公司に依託され、昭和十四年度に於て出炭中の炭鑛は十二炭鑛、外に石家莊骸炭工場があつた。しかし北支開發會社が設立されると同時に、炭鑛の經營管理は漸次興中公司から北支開發會社に移され、開發事業の統一が行はれる事となつた。

北支開發會社は、北支蒙疆地域を大同、井陘、中興、大汶口、山西、磁縣の六ブロックに分つ

て開發する計畫の下に、目下着々と事業を進めてゐるが、このほかに、山東鑛業會社の手により坊子、博山、淄川炭鑛の開發が行はれてをり、昭和十四年度に於ける北支蒙疆炭の對日供給は治安状態の不良、水害等の障礙があつたにも拘はらず、大體豫期通りの成績を擧げたのである。

(ロ) 鐵 鐵鑛の推定埋藏量は蒙疆約一億噸、河北省四千萬噸、山東省一千四百萬噸、山西省三千萬噸であつて、合計約一億九千萬噸、全支産額の約五四%に當つてゐる。今次事變勃發後軍の管理下に置かれるに至つ



新支那讀本

會社は、先づ石景山製鐵股份有限公司及び山西製鐵股份有限公司を設立し、戦火による破壊や、水害等の幾多の障碍を克服して、復興の巨歩を踏み出した。この外、日支合辦の龍烟鐵礦會社、山東鑛業會社經營の金嶺鎮鐵礦があり、長期建設を目ざし着々と成績を収めつゝある。

(ハ) 礬土頁岩 礬土頁岩は、アルミニウムの原料として重要であるが、山東省博山、淄川附近に、約二億七千萬噸が埋藏されてゐるといはれてゐる。昨年十二月には、北支開發の子會社として、華北礬土鑛業股份有限公司が設立され、北支に於ける礬土頁岩の採掘と販賣及び礬土頁岩を原料とする工業並びに製品の販賣等の事業を開始した。

(ニ) 金 冀東長城線一帯の金の採掘は、昭

和十三年四月に設立された北支産金株式會社がこれに當ることになつてゐる。同社は、種々の障碍のため、第一年度たる昭和十三年四月から翌年三月までは、事業を開始するに至らなかつたが、昨今は萬難を排して所期の開發目標に向つて邁進してゐる。

(ホ) 重石(タングステン) 河北省、山西省には重石の埋藏があり、目下詳細調査中であるが、遠からず採掘の段どりに至るものと思はれる。

二、中支方面

中支に於ける重工業資源も、決して北支に劣らない。殊に、鐵鑛石の埋藏は極めて豊富で、揚子江の舟運と相俟つて、有利な採掘状態にあ

る。

今次事變に當つて中支方面の戦禍は激甚であつたが、支那經濟上に占める中支の位置の重要性に鑑み、戦局の進展と共に、とり急いで復興に着手し、日支合辦、軍管理等の方法によつて破壊工場の復興を圖つてゐる。昭和十三年十一月、前述の通り國策會社として、中支振興會社を設立し、各種事業に對する投資又は融資をなさしめ、これによつて中支那に於ける經濟の復興と開發を助成することとなつたのである。

次に中支に於ける重要鑛山の復興状態を述べよう。

(イ) 鐵鑛 占據地域に於ける鐵鑛産地は、安徽省當塗、桃冲、銅陵、江蘇省銅山、江寧、浙江省長興、建德、湖北省大冶等であつて、そ

の埋藏量總計約四千百萬噸と稱せられる。この地域の開發には、昭和十三年四月華中鑛業公司が設立されてこれに當り、先づ當塗、桃冲から着手したが、同社の努力によつて主要鑛山に於ける復興状態は極めて良好で、年産約五十萬噸に達してゐる。一九三四年に於ける全支鐵鑛産額九十萬噸と比較すれば、大體復興の程度も推察されよう。同會社は本年度には既稼行主力鑛山たる南山、凹山の改善、擴張、特に輸送設備の擴充による出鑛能力の増大に努めると同時に他の破壊鑛山の復舊に全力を擧げてゐる。

(ロ) 石炭 主要な炭礦としては、安徽省淮南炭礦、浙江省長興炭礦がある。その開發機關としては、昭和十四年淮南炭礦株式會社が設立され、年産二百萬噸を目標として稼行を開始し

てをり、輸送機關の完備と相俟つてその活動が期待されてゐる。

以上概観した通り、支那の地下資源は極めて豊富であつて、その開發機構も追々整備擴充しつつあり、新支那建設の將來は極めて明るいものがあるといへよう。

農

業

支那事變もこゝに四年、南は海南島から北は蒙疆まで全支の三分の一は皇軍の占領するところとなつた。この廣漠たる地域には「江浙實らば天下飢えず」と稱せられる江蘇、浙江二省の豊饒なる揚子江沿岸の稻作地帯をも含んでゐるのである。大東亞共榮圏の確立が高唱される今日、その一環としての農業が新たな観点から取りあげられ、農業國支那に對する反省が改めてなされることは、占領地域の農業地帯としての重要性に鑑み意義あることと言はねばならない。しかしながら、事變當初は、交戦地域の擴大

新支那讀本

に伴ふ土地の荒廢、農民の避難流亡による農業勞働力の不足によつて、支那農業の特徴である零細過少農經營の下に於ける農業生産力は著しく減退し、加ふるに水害等もあり飢饉の虞れさへないではなかつた。しかし次第に治安が回復するに伴ひ、かやうな困難も着々克服され、今や新政府下、わが大陸政策發展の線に沿うて、尨大な數に上る支那農民に確固たる新秩序を與へる目標の下に、農村の復興、生活の安定が確立されつゝあり、また農業富源も開發せられつゝあるのである。來

るべき新時代に於ても、この巨億の農民が新支那國家の根幹をなすものである以上、農業政策の確固たる遂行こそ東亞新秩序の建設にとつて喫緊事なのである。

まづ支那農業の構造と特質を一瞥しよう。

支那農業の特質

支那農業の特質は (一)原則として物納制に表現される半封建的な高率地代 (二)零細過少農經營 (三)農業生産力の低位 (四)農村高利貸の跳梁 (五)自然的悪條件に對する技術的克服の不完全等である。

かゝる特質の起つた原因は、支那が完全に歐米列強の商品市場と化し、自らの正常な工業の發展が阻碍され、従つて、農業人口が依然とし

て農村へ停滞するか、或ひは都市に出て、ルンペン的な苦力といふ新しい勞働力と化さざるを得なかつたこと、及びかくしてその農業生産關係は遂に封建的色彩を拭ひ去ることが出来なかつたことに存するのである。特に舊蔣政權が歐米列強の走狗と化し、地方土豪劣紳高利貸と結托し、何等積極的な農業政策を行ふことなく、農民の搾取、疲弊の上に存在してゐたことによるのである。

左に經營面積別農家百分率を示し、支那農業が如何に零細な規模の上にあるかを明らかにしよう。

經營面積別	北方十二省	南方十四省	全
	(四四七縣)	(四四四縣)	(八九一縣)
五畝未満	二七・一%	二五・七%	三五・八%

一〇—一五	二一・五	一七・六	二五・二
一五—二〇	一三・四	一〇・〇	一四・二
二〇—三〇	一六・八	一〇・〇	一四・二
三〇—四〇	一〇・〇	六・一	一六・五
四〇—五〇	一〇・〇	六・一	一六・五
五〇—一〇〇	七・二	三・四	八・三
一〇〇畝以上	四・三	三・四	八・三

註 一畝—六・一九五二日本畝、民國二十五年中國經濟年鑑による。

なほ農家一戸當り耕地面積は蒙疆及び邊疆地方を別とすれば、北中南支十七省では、最高は

山西省の三二畝、最低は湖南省の二二畝、平均して一八畝である。勿論收益の多い水田耕作と多

毛作の行はれる南方諸省と、旱地農業を主とする北方諸省とを同一に論ずることは出来ないが、普通支那で農民一家族を養ふに必要な最少限度の耕地面積は、大體二〇畝前後と稱せられることを考へただけでも極めて零細な規模と言

はねばならぬ。なほ前表に明らかやうに、極めて小規模な耕作面積しか有たない零細農と農業雇勞働者が、南北を通じて壓倒的多數を占めてゐるが、これが支那農村人口の大部分を占める、いはゆる農民大衆であり、窮迫と惨めな農業經營にもかゝはらず、その國家社會の存立の上には有する意義は非常に重大である。

小作料は、分益制が最も多く、穀納制がこれにつき、金納制は對收穫高に換算すれば三割乃至四割と見られ、最も多い。

分益制	優良地	中等地	劣等地
(對收穫高)	水田 五一・五%	旱田 四八・二%	旱田 四四・九%
穀納制	水田 四七・八%	旱田 四五・三%	旱田 四三・七%
(對收穫高)	水田 四六・三%	旱田 四六・二%	旱田 四五・八%
金納制	水田 四四・三%	旱田 四四・六%	旱田 四四・四%
(對地價)	旱田 一〇・五%	旱田 一〇・九%	旱田 一一・〇%

〔註〕 國民政府主計處統計、二十三省（滿洲を含む）調査

右に示したのは正規の小作料であり、これには更に押租、副租等の名稱の下に種々の不利な條件が附屬してゐるものが普通であるが、これが農業生産力停滞の主要原因をなしてゐる。

農村に於ける高利貸の跳梁については、負債農家（農家の五六％は借金をし、四八％は借糧してゐる）の債権者の大部分は私人（地主、富農、商人乃至商店）で合計八〇％、これに典當（質屋）及び錢莊（兩替店）を合せると全農家の九五％は負債を負つてゐることになる。利子は年二割乃至四割が普通である。このやうな苛酷な條件下にあつて、それが農民の獨立的經營をいかに困難ならしめてゐるかは説くまでもな

かゝる種々の桎梏を負はされた農業の生産力は然らばどうであらうか。單位面積當りの平均收穫量は、大體ドイツの三分の一、日本に比して二分の一に過ぎないと言はれてゐる。世界主要國における農産物一ヘクタール當り收穫量を見ると次のやうである。

國別	小麥	米	大麥	玉蜀黍	煙草	棉花
支那	七・三	一八・九	八・一	九・七	九・二	一・九
日本	一六・九	三三・九	一九・二	—	—	—
印度	六・七	二四・九	—	—	—	〇・九
ソ聯	七・六	—	八・二	—	一五・五	—
米國	九・七	三三・七	一三・九	一五・八	八・四	一・七
ドイツ	二・五	—	三三・六	—	—	—
世界平均	九・六	一五・七	二二・五	一五・七	七・九	一・五

〔註〕 一九二八—一九三〇年三年平均
この表によつて見ても、支那がどんな水準に

あるか、窺はれるであらう。

新政權の農業政策

以上述べたところから、農業生産力を極度に停滞させ、農民の疲弊、困憊に對し、殆んどなす所なかつた蔣政權に比し、新政權の新支那農業建設の方向が如何にあるべきか、一應明らかとなるであらう。即ち第一に、支那農業の自然的悪條件の技術的克服であり、第二に、農業生産力の桎梏となつてゐる社會的經濟的諸原因から農民を解放することである。

他方、農業富源開發に關しては問題は二つに分れる。一は、日滿支ブロック經濟確立の見地よりする棉花、羊毛、煙草等の原料農産物の開發であり、他は、日本農業と對抗關係に立つも

の、例へば生絲、茶等の問題である。新政權の下にそれ〴〵積極的且つ合理的な開發が進められつゝあるのであるが、なほ日本の物質的、技術的援助に待つことが甚だ多いのである。以下、北支、蒙疆、中支、南支、海南島と分けて論じよう。

北支 北支は一般に農業地域であり、小麥、粟、高粱が主要産物をなし、その他棉花、落花生、玉蜀黍、煙草、大豆、甘藷があげられる。小麥はその大宗であり、事變前、北支三省の年生産額は一三五、九〇一千市擔（一市擔は五〇斤）に達してゐた。高粱七〇、四〇五千市擔、粟は八四、四一四千市擔であつた。しかし近年、食糧關係においては北支は輸移入に待つ状態であつた。北支總人口の七、八割までが農民であ

る人口構成から考へると、これは一見不可思議な現象であるが、前記の支那農業構造の特質から考へると説明のつく事柄である。



ど、農業水利問題の解決

の問題をとり上げ、興亞院連絡部、軍宣撫班その他各種機關の援助の下に着々成功を見つゝある。わけても棉花増産計畫はその生産状況から考へて八年後には、一千萬擔は可能であるとし、華北棉産改進會、華北農事試驗場に對する日本からの技術的、物質的援助と相俟つて、積極的な優良品種の配布、施肥、病蟲害の防除、土地の改良等が指導されてゐるが、この棉花増産計畫こそ、大東亞ブロック經濟確立の上に重要な一支柱をなすものである。

蒙 疆 蒙疆地帯はその自然的條件と東亞ブロック經濟確立の見地から、家畜、畜産物の増殖、わけても羊の増殖計畫がとり上げられ、狹義の農業政策は比較的消極的である。以下、

輸移入額は、小麦粉全需要量三千六百萬袋の中千八百萬袋、米三百萬石のうち百萬石、雜穀四十萬トンと推定される。このことは北支食糧確保政策、増産政策の緊急性を示唆するものである。

従つて今の華北政務委員會、舊臨時政府は、兵火がおさまるや應急的復興政策を行ふと共に、抜本的な農業政策として、

- (1) 各地に農事試驗場、棉作改良機關の設置、華北産業科學研究所の機構擴大
- (2) 農事合作社を普及せしめることによる、農民の古き社會的經濟的桎梏からの解放
- (3) 農村開發、農民救済を目的とする大土木事業計畫
- (4) 黄河の治水計畫を始め、各河川の改修な

蒙疆の農業政策について述べてみよう。

- (イ) 土地政策——近代的地地制度を確立し、土地私有制を認めるが自由處分を禁じ、縣長又は政府の許可制とする。また從來の慣行上の各種土地使用權を尊重する。
- (ロ) 軍需的農産物として大麻、馬糧作物の増産確保
- (ハ) 各種農産物の優良種子の配布、農事試驗場の設立、日本よりの優秀技術員の招聘、春耕資金の貸付
- (ニ) 畜産政策——蒙疆は古來畜産を以て有名であり、蒙疆産業の基幹であつたが、蔣政府の指導宜しきを得なかつたため漸次衰滅しつゝあつたのである。しかし、事變を契機として、蒙疆新政府により積極的増産計

畫がとり上げられ、羊の品種改良、撈毛、加工の改良、放牧地の確保、農事試験場の設置等が行はれ、且つ又冬期の飼料不足に備へ、冬營地なるものが設置されてゐる。かくして蒙疆が、日本への羊毛原料の供給地となる日も近いであらう。

中支 揚子江流域即ち、江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南等何れも農産物に富んでゐる。

この地帯は自然的條件に恵まれ水田農業を主とし、概して二毛作である。米を大宗とし生絲、棉花、茶、小麥、大麥、豚毛、皮革等種々雑多なものが産出される。

この地帯は今次事變において、抵抗の最も激しかったところで従つて破壊も亦激甚であつたが、維新政府が成立するや、いちはやく農村復

興計畫がとり上げられ、農事調査、難民救済が着々實行された。しかして新中央政府の南京遷都と共にその行政機構も整備され、農業政策も極めて力強く行はれつゝある。即ち、興亞院華中連絡部を主體として日本側の各種官民機關の物質的、技術的援助の下に、

1. 棉業改進機關の設立
2. 絲繭事業の徹底的改革
3. 合作社網の擴大強化
4. その他各種調査、技術研究所の設立

等が實行されてゐるのである。蠶絲業は中支那振興の下に華中蠶絲がその任に當つてゐるが、優良品種の配給、飼育の指導等を行つてゐる。

南支 南支は一般に山岳に富み、平野は珠江下流のデルタ地帯に過ぎない。従つて農産物

はこの地帯を中心として米を筆頭に、生絲、大豆、甘藷、落花生、玉蜀黍、粟等を産するが、南支全體としては自給自足の域には達してゐない。たゞ米だけは全支産米の二五%を占めてゐるが、その他は煙草の一七%、落花生の一%以外は殆んど一—二%を占めるに過ぎない状態である。新政府の積極的農業政策としても未だ見るべきものはない。

海南島 現在海南島の耕地面積は約十萬町歩足らず、農業技術水準は極度に低く、灌溉設備等も全然なく、耕地すら水を追うて移るといふ状態である。従つて米の收穫高も、年二回乃至三回作でありながら日本内地の一回作に遠く及ばないのである。産物は米以外には甘蔗、ゴム、椰子、麻等であるが生産高は問題にならない。

しかし、治安が最もよく、また自然的好條件に恵まれてゐるので、わが南進政策の尖端たる本島は今後積極的開發政策が強行されれば、その成果は大いに期して待つべきものがあらう。

交通と通信

五四

疾風枯葉を捲くやうな皇軍の武威は、事變勃發一年有餘にして、既に支那交通動脈の主要部分を殆んど我が手に收めてしまった。これと共に蔣政權側の交通は寸断されるに至つた。これは今日から約二年前、廣東武漢攻略以來の事である。その後には於ける我が軍の作戦が、残された敵の輸血路を風つぶしにつぶしてゆく方向に向けられてゐることは周知の通りである。かうして蔣側の交通路は日に月にせばまり、西南、西北交通建設の必死の努力も時既に遅く、今や正に最後の關頭に立たうとしてゐる。

これに反して、全支鐵道網の過半を握り、支那大陸交通の大動脈たる揚子江を抑へ、更に重要海港と全海面とを制壓した新政府側の交通は、戦火が遠のいて復興が進むと共に、日に月に疏通して、産業の開發に、治安の確保に、ますます偉大な貢獻をなしつつある。その現状はどうなつてゐるであらうか。以下新政府治下の鐵道、公路、港灣及び航空について、その概略を述べることとする。

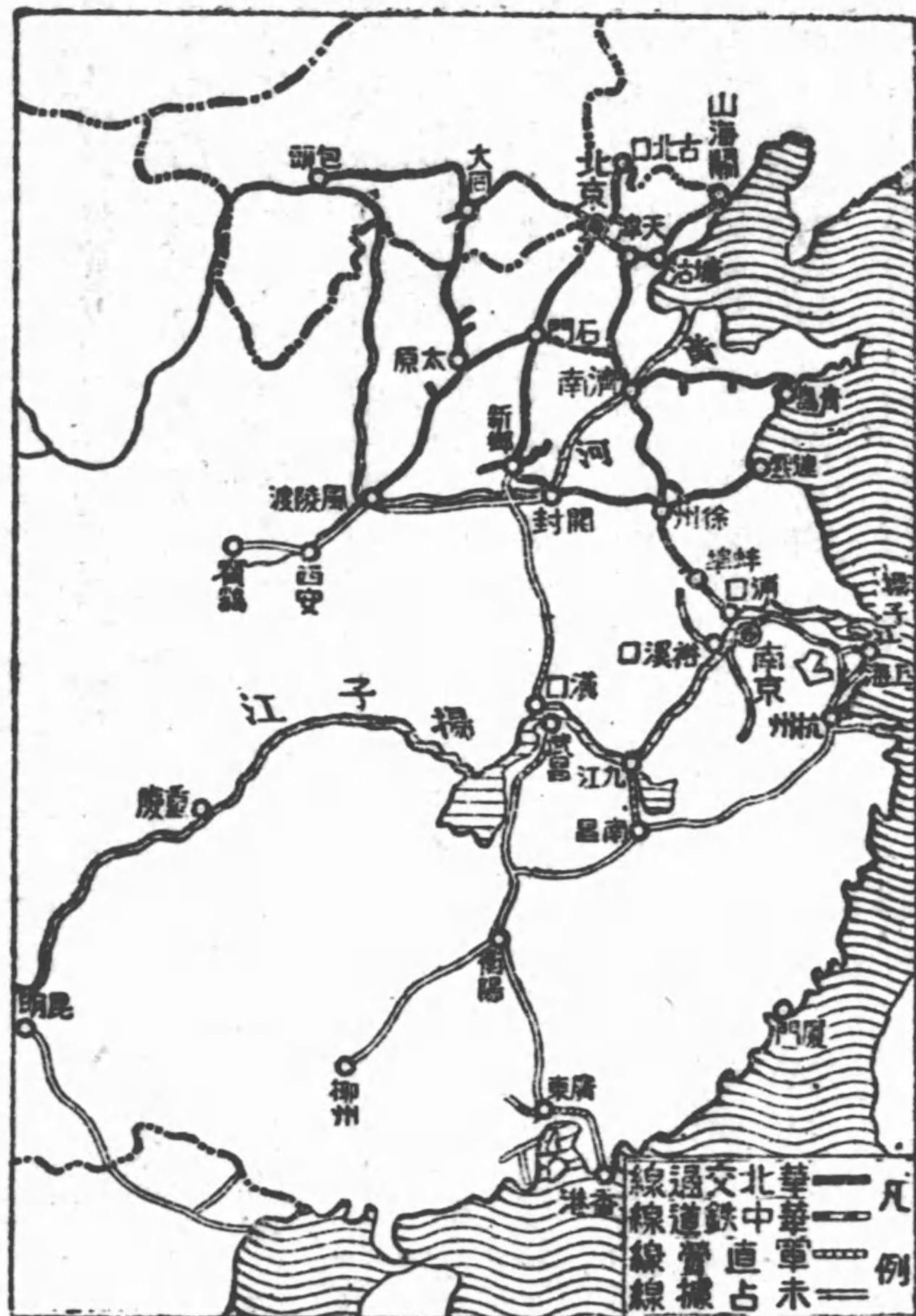
鐵道

事變勃發當時の支那鐵道は、國營を主とし、これに公營、民營、外國鐵道を合して一一、二一〇軒であつたが、その布置は地理的、經濟的關係から、北支に密で中南支に比較的疎であつた。殊に今日蔣側の本據である西南地方は、元來全く僻陬の地であるから、鐵道は殆んど發達してゐない。従つて支那鐵道の主要な部分は、殆んど擧げて我が手に歸したわけである。今日新政府の地域内にある鐵道は約七、〇〇〇軒、事變當時の全支鐵道の約六三％に當つてゐる。割合にすれば、半ばを少し越す程度ではあるが、全支の鐵道網から見れば丁度扇の要のやうな重要な部分であり、重慶側に殘された鐵道が大部分兩端を割取されるか、或ひは半分を切斷されるかして、バラ／＼になつてゐるのと異り、首尾一

貫し、各線相通じて、完全に有機的連絡を果すことができる。さて、この老大な新政府下の鐵道は、今日どう經營されてゐるか？ 新支那に於ける鐵道は、軍事行動が北支と中支とで別々に始められたやうに、そして又地理的、經濟的及び政治的環境が異つてゐるのに従ふかのやうに、その接收も南北異つた系統の手によつて行はれ、今日も別別の國策會社によつて運營されてゐる。まづ北支では、事變直後の昭和十二年八月、滿鐵の手で北支事務局が開設され、鐵道省派遣團の應援を得て擴大してゆく北支鐵道網の運營維持に努めた。中支では、鐵道省派遣員の手で昭和十二年十二月、鐵道部隊（軍鐵道局）を組織して占領地鐵道の運營に當つた。

かうして約一年有半を経過したのであるが、事變が漸く長期建設戰の段階に入るとともに、占領地經營の本格化が要望されるに至り、北中支鐵道の經營形態にも、新たな恒久的形態が考慮されるやうになつた。この形態については、

各種の構想が行はれたのであるが、鐵道の急速整備のため専門知識及び技術の進出を自由且つ容易ならしめるには、獨立主體に經營させるのが適當とされた。そして、經營主體、既存財産の處置等について種々の事情を考慮した結果、



昨十四年四月、華北交通會社と華中鐵道會社といふ半官半民の支那特殊法人が設立された。(漢口、廣東兩市を中心にした占據鐵道は軍管理下に運營されてゐる)

營をなすとともに、必要に應じて内河水運または自動車等の交通事業を綜合經營するため、中國政府の特殊法人となつてをり、經濟的性質は日支合辦の營利法人である。

兩國策會社の概要と現況は左の通りである。

(イ) 華北交通會社

昭和十四年四月十七日創立、本社を東京におく。

資本金三億圓(内拂込濟一億七千九百七十萬圓)、出資内譯は日本側、北支開發一億五千萬圓、滿鐵一億二千萬圓、支那側舊臨時政府三千萬圓。

事業の概要は、鐵道線路が京山線(北京—山海關)、京漢線(北京—新鄉)、津浦線(天津—蚌埠)、京包線(北京—包頭)、京古線(北京—古北

新支那讀本



海線（連雲—開封）の十線、總行程五、二六五、五軒。（既存の鐵道は、蒙疆、中國兩政府が所有權を有し、これを交通會社に委託經營した建前をとり、本事變に當つてわが方で復舊改良または建設したものは社有とすることになつてゐる。なほ新線建設については、既に具體的計畫が樹立され、既に着工して工事が大いに進んだものもある）

外に北支各地方に互つて、一〇、七〇〇軒に上る自動車路線、五八四軒に上る内河水路及び天津特三區、塘沽站前、塘沽北砲臺、連雲、大浦の五埠頭をも經營してゐる。自動車と内河水運は鐵道の不足を補足して北支の交通上にかなり重要な意義を有するものである。

鐵道の營業成績は、昭和十四年度には、輸送

旅客數約二千六百萬、貨物發送噸數約三千萬噸、收入は客車收入五千三百萬圓、貨車收入七千九百萬圓、その他の收入百三十萬圓、合計一億三千三百萬圓である。これは營業軒一軒當りにすると約二萬五千圓となり、開業當初の成績として必ずしも悪い成績ではない。しかし事變がなほ繼續中で、しかも復興日なほ淺い際でもあり、殊に昨夏の大洪水に災ひされて支出が多く、全體としての損益勘定は今日のところ缺損を免れない。

(口) 華中鐵道會社

昭和十四年四月三十日創立、本社を上海におく。資本金五千萬圓（内拂込濟二千七百五十六萬五千圓）

事業の概要は、鐵道線路が海南（上海—南京）、

に死守されてゐる。

中支鐵道については、政治、經濟、文化、貿易の中心地たる新政府の心臓部を繞る動脈線として、また日支兩主都を結ぶ最短連絡線として、今後の發達を助長すべきである。

さてこれ等新政權下の鐵道は、現在自己に課

營業成績は、昭和十四年度（會社創立日の關係上十四年五月一日から十五年三月末日までの十一ヶ月間）輸送旅客數六百四十萬人、貨物發送噸數百八十萬噸、客車收入千百六十萬圓、貨車收入八百九十萬圓、收入合計二千五十萬圓。これ等の鐵道は地域的に第一線に接してゐるので、往々にして敵襲等の危險もないわけではないが、大陸開發の先驅として悲壯な決意の下

せられた使命を全うしてゐるかどうか、問題は、早くも日滿支經濟ブロックの一環に取入れられてゐる北支に在る。日滿北支を通ずる一貫的經濟計畫によつて、日本が北支に期待する物資は今日既に相當の量に上り、その輸送の重責は繫つて北支鐵道の雙肩にある。線路、運轉資材等の整備は、今日までのところ資材の入手が困難なため、必ずしも意の如くならなかつたが、次

第に改善されてゐる。

輸送に關しては、最大効率を發揮させるため、北支輸送統制委員會の下に輸送統制を行ひ、軍事輸送をも含めると數量に於て大體事變前の量を凌駕してゐる。對日重要物資の輸送については、特に港灣、海運との密接な連絡をはかつて、大體最初の計畫通り輸送されてゐるが、開發の進行によつて日本の期待する物資が増産されるに伴ひ、北支鐵道の能力増強は焦眉の急務である。

道 路

支那では從來鐵道網の發達が幼稚であつたために、道路は交通路として重要な意義を持つてゐた。事變勃發以來、軍事上は勿論、經濟開發、

治安工作上、鐵道網の補足として道路の整備が一段と要請されてゐる。

道路計畫は、差當り事變で荒廢したものを事變前の状態に復し、更にこれ等を雨期にも耐へ得る道路として改良することに重點を置いてゐる。そのために北支では、昭和十四年度から公路建設五ヶ年計畫を立て、着々工事を實施中で、主要路線五十六、延長一一、六〇〇料、この建設改良に要する費用は約一億三千三百萬圓である。中南支方面では、具體的計畫を立てるために現在調査中である。そして道路の計畫と實施は、殆んど大部分支那政府が行ふことになつてゐる。

この道路による自動車交通が、鐵道に代るものとして重要な地方的役割を果してゐること

は、華北交通、華中鐵道兩社の自動車道路が、一萬數千料に及ぶことによつても知られよう。

海 運

支那の中樞部は、揚子江を中心として四通八達した水路を有し、古來内陸の交通も、多くは水運を根幹としてゐた。かやうな地理的特性と、近代機械化文明の發達が非常におかれてゐるといふことが相俟つて、支那の交通は今日なほ多分に、自然的交通路たる水路に依存してゐるのである。しかし支那自身の近代海運の發達程度は極めて幼稚であり、對外航路はもろろん、沿岸、長江等を通じて完全に外國船の制壓下にある。そのうち英船の勢力はなか／＼抜き難いものがあり、事變以後大いに衰へたとい

へ、なほ依然として王座を譲らない。

事變によつて支那船は壊滅的な打撃を受け、邦船の占める割合は非常に向上した。しかし覇權の確立にはもう一步といふ所であり、しかも全體として就航船舶は激減を餘儀なくされてゐる。

この情勢に應じ、この重要な支那の水運を維持するとともに、進んで、東亞の海上から歐米勢力を驅逐して、海の覇權を確立すべく、支那水運の第一線に立つものに、日本側に國策會社東亞海運があり、支那側に中華輪船、上海内河汽船の二社がある。

東亞海運會社は、支那を中心とする航運關係の、日本海運勢力を綜合統一して、わが航權を確保伸張し、日本海運の絶對優位を確立するた

めに昨年八月五日創立された日本の國策會社である。資本金七千三百萬圓。郵船、商船、日清汽船その他日本各社の支那關係航路と、その就航船舶を統合したもので、現在社船備船等を合せて六十八隻、二十四萬二千總噸を擁し、これを二十六線の航路に配し、支那を中心とする海運業、倉庫棧橋業等を營んでゐる。本社は東京にある。

中華輪船會社は、東亞海運と緊密に提携し、東亞新秩序に即應して、中支方面に於ける航運事業の健全な發達を圖る使命の下に、長江と長江を中心とする沿岸航路に當ることを目的として、本年二月二十五日に創立された日支合辦の舊維新政府特殊法人である。資本金は三千萬圓、日本側としてはその使命に鑑み、東亞海運、中

支振興の兩社が出資してゐる。本社は上海にあり、創立以來約半年、日が浅いためにその活躍は今後に期待されてゐる。

上海内河汽船會社は、中支の主要な内河航運を統制して合理的に經營するために、最も早く昭和十三年七月二十八日に創立された日支合辦、舊維新政府普通法人で、本社は上海に在る。上海を中心とする航路網をだん／＼に擴充し、本年度全長三千餘浬、八十五線に達せんとし、地方物資輸送上重大な地位を占めてゐる。

なほ北支の海運業の自治的統制を行ひ、健全な發達を期するために、北支の航運業者や關係業者團體を結成糾合して、共同利益の増進を圖るため、最近中國特殊社團法人の華北航業總會が設立された。また南支には、廣東を中心と

する珠江本支流の内河航路の一般貨客の輸送を

目的として、廣東内河運營組合が、暫定的に出資金約百二十八萬圓を以て昭和十四年五月結成され、占領地域と香港、澳門等の航運に活躍してゐる。

東亞、中華、上海内河三社の營業分野は、大體に於て、東亞海運は日支間と支那沿岸並びに長江の開港場間のやうな大動脈の航運に當り、中華輪船は長江の開港場と開港場の間及び不開港場相互間の航運のやうな東亞海運の培養的勢力をなすのをその任とし、内河汽船は最もローカルなクリークの航運を行ふことになつてゐる。

かやうな三組織の緊密な連絡の下に、東亞新秩序の確立を企圖する海運態勢は着々伸展して

ゐる。

港 灣

水運の問題が中支を中心としてゐるのに對して、港灣の問題は、今日北支に集中してゐる。

もとより中南支に港灣がないわけではなく、上海港などは寧ろ全支輸出入量の半ば以上を吞吐する支那第一の大港である。にもかゝらず問題の焦點が北支に在るのは、北支重要物資の輸移出量は今日既に大量に上つてをり、更に近い將來飛躍的に増大することを豫定され、そしてその搬出は結局北支の海港から海路によらざるを得ないからである。しかもこの方面に於ける主要港灣の現在能力は、既に相當不足を告げてをり、北支港灣の改修増強は、東亞經濟プロッ

クの建設途上に於て、新支那がその交通整備上、まつさきに解決すべき最喫緊事となつてゐるのである。

北支の海港としては、北から、秦皇島、天津及び塘沽、威海衛、芝罘、龍口、青島、連雲などがあり、どの港を北支の主要港とするかは、技術上や経済上の見地から、種々の論議が戦はされたが、結局地理的に北支の咽喉を扼し、経済上最大の背後地を有する塘沽を選び、地質その他についての技術上の検討を経て塘沽沖に大規模な築港を行ふことになつた。

重要物資搬出のルートから見れば、これだけでは未だ充分でないので、既存の諸港も修築増強することとし、奥地物資を計画的に各港に配分して、水陸連絡運輸に十二分の力を發揮させ

ようとしてゐる。

塘沽新港の建設計畫は、暫定的に、興中公司の外局的な工事擔當機關として北支新港臨時建設事務局を設置し、とりあへず昭和十八年度末までに七百五十萬噸の吞吐能力を有する新港を建設しようといふのである。本計畫は北支港灣計畫の中核をなすもので、現在の、塘沽を去る二十二、三浬の沖合海上で荷役してゐる、極めて不利不便な状態を除き、これを岸壁での荷役とし、一方白河の水魔の跳梁を抑へようと、雄大な規模の下に強力に遂行されつゝある。

この他天津、青島の兩港も、昭和十七年度末を一應の目標として、設備能力の大々的増強を目ざして工事に着手してをり、また敵方によつて破壊された連雲港は、應急的復舊工事中である。

るが、既に中興炭の搬出には相當な役割を果してゐる。

上海港については、新上海都市計畫と一體をなす大規模な計畫が進められつゝある。

航 空

舊國政府治下の支那では、航空事業の大部分は獨、米資本の跳梁に委せられ、日本系のものであるとして、事變直前に創立された資本金四百五十萬圓の惠通公司が北支で活動してゐたに過ぎなかつた。事變後占領地域が擴大すると共に、同公司の航空路は急速に擴大していつたが、航空事業の重要性に鑑み、強力な東亞航空政策の實現を期するために、當時の中國三政權(臨時、維新、蒙疆)と日本側(大日本航空、惠通公司)

の合作による中華航空株式會社が、惠通公司を吸収して暫定的に昭和十三年十二月成立し、大陸空の交通路は爾來同社の手で運営されてゐる。

資本金は當初六百萬圓であつたが、更に擴大強化して、大日本航空會社との連繫を緊密にするため、昭和十四年九月五千萬圓に増資し、十二月には中華航空株式會社法が公布され、これに基づいて機構も改組強化された。資本金五千萬圓(四分の一拂込)。當時の臨時、維新及び蒙疆三政府の特殊法人として誕生し、現在北京に本社を置いてゐる。

從來運輸中の定期航空路は北京—大連線、北京—上海線、北京—包頭線、上海—漢口線、南京—漢口線の五線(毎日運航)と、他に軍用定

期線であつたが、本年になつて、豫定航空路たる上海—廣東、上海—大連、上海—杭州、北京—開封を開設したほか、九月一日からは、青島—太原間をも開業してゐる。

通信と放送

郵政 事變によつて郵政機能は壊滅的狀態に陥つたが、日本側の積極的指導、協力によつて大體舊狀を回復した。そして蒙疆政府には郵電總局(昭和十二年十二月)、舊臨時政府には郵政總局(昭和十三年八月)を設けて、各政權下に於ける一般業務の指導管理を統制的に實施することとしたのである。しかし郵政の分野に於ける舊制度の勢力はなほ強く生きてをり、また業務上確かに有能でもあつたので、郵政業務の實

施に於ては昆明に在る郵政總局を認めて、その支配下に活動してきた。といふと奇妙に思ふ人があるかも知れないが、通郵、通匯(郵便と爲替)のことは、もと／＼極めて技術的事柄であるとともに、一定地域に於ける統一的連絡處理を必要とするからである。また從來の支那郵政機關が非政治的、中立的性格を保持してゐたからでもある。支那の郵政は、もと海關の一部として創設され、後に獨立して政府の一機關となつたが、創立當時の傳統が失はれず、首腦部は常に外人によつて占められ、ビジネス的な團結力が強く、政争の外に超然たる活動を續けてゐたものである。しかし今や新政府の樹立を見たのであるから、支那郵政を全面的に新中央政權の傘下に獲得することを目標として、逐次

既設政權下に於ける管理の強化を圖つてゐるのである。

電氣通信 事變によつて電氣通信も甚大な被害を受けた。當初は應急的に、軍の下で通信施設

の復舊と運営が行はれたが、その後當時の三政權下に左の新會社が創設されて、通信事業の本格的經營に當つてゐる。いづれも日支合辦で當時の各政府の特殊法人である。

蒙疆—蒙疆電氣通信設備會社：昭和十三年三月創立、資本金千二百萬圓。この社は他の二社と異り、設備を行ふのみで、運営は政府の手に在る。

北支—華北電信電話會社：昭和十三年七月創立、資本金三千五百萬圓。

中支—華中電氣通信會社：昭和十三年七月創

新支那讀本

立、資本金千五百萬圓。

なほ厦門にも近く日支合辦の厦門電氣通信會社が設立されようとしてゐる。

放送 從來は軍の管理下で行はれてゐたが、北支では、去る七月三日、日支雙方の醸出による財團法人華北廣播協會が設立され、直ちに事業に着手した。また中支でも、日支雙方の醸出による財團法人華中放送協會が目下設立準備中である。大體の方針としては、日本側で必要な指導力を持ち、日滿支間の連絡を最も緊密、圓滑ならしめ、以て東亞放送網の確立を期することとしてゐるのである。

わが軍による重要地域の攻略と沿岸封鎖の強化は、支那貿易に一大轉換を繰りひろげつゝある。それは、抗戰支那の後退と新生支那の登場を契機として、新東亞建設の巨歩が、支那貿易の面に於て歩一步と踏み固められつつあることを意味する。

しかしながら、戦争といふ特殊条件の渦中にある現在に於て、支那經濟の様相は相當に歪められ、國內物資の流通も完全に圓滑とは言へず、その貿易情勢も極めて變態的となつてゐることは蓋しやむを得ないところであらう。歐米

列強の前進基地たる租界の存在と、英米依存の法幣制度とが、これと交錯して、ます／＼その混亂と複雑化を加重しつゝあることは否めない。しかしながら、これ等の障礙は新秩序の生成に到達するまでの過渡的現象として、當然その現出を豫想されたところであり、目下日支兩國提携の下に着々克服せられつゝある。

新政府下、貿易の展望

僅かに西北ルートを残して、海上からの援蔣ルートを完全に絶たれてしまつた蔣政權が、西

南地區に據つて、自給自足方策の樹立に最後の足掻きを見せてゐるのに引きかへ、新政府下貿易の回復は相當目ざましいものがある。

元來上海、天津等の主要海港を中心とする物資の集中分散は、支那經濟の運営に於ける永年の歴史的事實であると同時に、經濟地理的條件より見ても、最も經濟自然の理に従ふものであり、この理に逆らふ蔣政權の奥地經濟建設の困難と、自然の理に従ふ新政府下貿易の發展は既に約束されたものといつても過言ではなからう。事變以來の新政府下貿易の趨勢を見ると、次表の通りである。

年次	輸入	輸出	合計
昭和十三年	五七九	四七七	一、〇五六
昭和十四年	一、一七九	八〇八	一、九八七
昭和十五年 (一月—六月)	八八五	七八二	一、六六七

新支那讀本

その全支貿易に於て占める割合も、昭和十三年度に於て六割四分、昭和十四年度に於て八割四分、本年度に於て八割七分と、飛躍的の進展を示しつゝある。かゝる顯著な躍進は、皇軍の驚異的進出による占領地域の擴大に負ふところが多いのは固よりであるが、支那經濟の急速な回復と、日支經濟合作に基づく經濟建設の進展とによることも否めない。

元來支那は慢性的入超國であつて、最近八年の統計を見ても、出超を見たのは僅かに六ヶ年に過ぎない状態であるから、早急な改善はもとより困難であらう。しかしながら、治安の回復と經濟建設の促進により、その豊富な奥地資源を活用して、貿易の跛行性を是正することは刻下の喫緊事である。

事變下の新政府下貿易を通観して、最も特徴的な事實は、日系通貨の出現である。日系通貨の出現は、敵性通貨法幣との間に、物資と外貨の獲得をめぐつて、全面的な經濟戦を展開しつつあるのが現状である。支那經濟の日本依存度はこれを契機として急速に増嵩しつつある。その概況を見ると左の通りである。(單位百萬元)

年次	輸入 對全支%	輸出 對全支%
昭和十二年	一五〇	一五・七
昭和十三年	二〇九	二二・五
昭和十四年	三一三	二二・三
昭和十五年(一月-五月)	一九四	二四・六

事變以來の本邦の對支貿易の躍進は、右に見るやうに極めて顯著なものがあつた。しかしながら、それは主として輸入の面に於て表はれ、輸出入の不均衡は、我が國の第三國貿易の維持

進展と、國民生活の確保の點と睨み合せて相當の問題を提起したが、本年に入り具體的な對滿支貿易計畫が取りあげられ、物動計畫及び資金統制計畫と照應して、圓ブロックの經濟の健全な發達を企圖する對策が講ぜられつつある。

北支の貿易事情

一昨年三月、北支に於ける貿易及び國內通貨として、圓元バーの原則の下に聯銀券の創設を見、こゝに北支經濟は圓ブロックの緊密な一翼として登場した。その後、に於ける輸出爲替集中制及び無爲替輸入許可制等の實施、並びに我が國よりの物資補給の増大は、聯銀券の北支經濟に於ける地歩をいよゝく確固たるものとし、東亞經濟の新秩序は先づ北支よりの態勢を示し

つゝある。

事變以來の北支貿易は飛躍的な發展を見せたが、その躍進は主として圓ブロック貿易の膨脹に起因し、第三國貿易は大なる進展を示してゐない。

今北支六港の貿易概況を見ると次の通りである。

年次	對圓ブロック	對第三國	合計
昭和十二年	六一	七四	一三五
昭和十三年	二〇五	一一三	三一八
昭和十四年	三五一	二二六	五七七
昭和十二年	六〇	一五五	二一五
昭和十三年	一四五	一〇九	二五四
昭和十四年	八三	一一七	二〇〇

右の統計の外に相當巨額の海外搬出があるか

新支那讀本

ら、これのみを以て判定するのは危険であるが、輸出の不振と輸入の飛躍的増加は、事變後の北支貿易の特徴をなすに至つてゐる。この北支貿易の特性は、北支自體の特異性に原因する點もあるが、また開發資材の需要急増、昨年度の水旱害及び天津租界隔絶の影響等に基づくものである。

日本の對支輸出の膨脹はもとより歡迎すべきことであると同時に、日滿支一體の理想より見て、必然の要請でもあるが、單に無統制に輸出を行はしめ、個々の商社或ひは個人の私益のみに資することは極力これを抑制する必要がある、これがため内外地及び支那現地各機關が相提携して、統制的な輸出入を實施してゐる現状である。

かくして日滿支貿易計畫の進展と第三國貿易管理の強化により、聯銀券を基調とする北支貿易體制の確立は着々その功を奏しつつある。

中南支の貿易事情

新政府下の貿易港は、我が軍による占領地域の擴大に従ひ、漸次その數を増加し、既に二十港に達するが、昨年度中南支貿易總額十二億一千萬元の中、上海貿易がその九割七分を占める状態であつて、廣東、汕頭等の南支主要貿易港も、漸次その機能を發揮しつつあるが、特に上海貿易の復興の如き、昨年度は既に事變前の水準を突破する趨勢を示してゐる。その事變後の動向を見ると次の通りである。

輸 入

(單位百萬元)

年次	對圓ブロック	對第三國	合計
昭和十二年	八〇	四二九	五〇九
昭和十三年	四六	二二六	二七二
昭和十四年	一〇二	四七〇	五七三

輸 出

昭和十二年	四四	三六〇	四〇四
昭和十三年	一九	二〇三	二二二
昭和十四年	四三	五五一	五九四

右に見るやうに上海貿易の回復は極めて顯著であるが、事變が上海貿易の性格に著るしい變化を齎した點は看過し難い。從來の上海は大長江流域の特産物資の輸出港として、またこの大市場に對する物資供給地としてその繁榮を誇つたものであつた。事變により一時揚子江に依る大輸送路の破壊を來したが、その後の日支提携に依る急速な經濟復興により、上海は主として我が占領地域物資と、上海工業製品及び同地域

の消費品と工業原料品の、輸出入港として再生することとなつた。

一方事變は中支貿易に於ける對日關係をますます緊密化した。しかしながら、中支と北支との間には著るしい相違があり、北支が我が方の完全なる統制下にあつて、その貿易額の大部分が我が國との貿易によつて占められてゐるのに比し、上海に於ては租界を過ぎる第三國よりの輸入品も相當の額を占めてゐるのである。しかしながら今次の歐洲情勢の變化により、上海の第三國貿易にも大きな變革を齎らしてゐる。

蔣政權下貿易の壊滅

事變直前の支那貿易は、近年の最高記録を作る情勢を見せたが、この躍進は英米の支援によ

る幣制改革の強行により、蔣政權による經濟建設がやうやく軌道に乗り始めたことを物語るものである。この經濟建設の表面的な成功は、蔣政權經濟の英米依存の態勢を強め、誤れる指導者に引きづられた支那五億の民衆を、塗炭の苦しみ叩きこむ有力な一原因となつたことは、餘りにも皮肉であつた。かくの如く元來外國に依存し來つた蔣政權は、事變により、支那工業生産の大部分を占める上海を中心とするいはゆる揚子江下流三角地帯が、わが方の占據するところとなつたので、蔣政權としては抗戰繼續のための物資の大半を援蔣國家群よりの輸入に俟たなければならなくなつた。

かくして不急不要物資の輸入抑制、土產品の輸出促進、法幣の對外價值維持等につき、あら

ゆる輸入能力の涵養、輸入確保の手段を講じたのであつた。皇軍の重要海港の占據或ひは沿岸封鎖に悲鳴を擧げつゝも、援蔣國家群の支援を唯一の頼みに、鐵道、公路の建設改修、輸送用トラック、ガソリンの購入、クレディットの設定、特産ベーター協定等により、餘命を保つに汲々たるものがあつた。中國海關統計により事變以來の蔣政權下貿易の概勢を見ると次の通りである。

(單位百萬元)

年次	輸入	輸出	合計
昭和十二年 (一月-七月)	七三〇	五七一	一、三〇一
昭和十二年 (八月-十二月)	二二三	二六六	四八九
右計	九五三	八三七	一、七九〇
昭和十三年	三一三	二八五	五九八
昭和十四年	一六三	二二一	三八四
昭和十五年 (一月-六月)	八七	一五四	二四一

右の中昭和十三年分は、上海喪失後、主として粵漢線により、廣東、九龍を経て行はれたものであり、昭和十四年度以降は、廣東の喪失により、佛印、ビルマ・ルート及び西南諸海港による分散的輸送路よるもので、我が方の占據地の擴大及び沿岸封鎖の強化により、漸減の一途を辿つてゐる。この中、大約三分の一は佛印ルート經由、他の三分の一は西南諸海港經由、残りは西北赤色ルートとビルマ・ルート經由であつて、武器輸入は西北ルート、ビルマ・ルート及び佛印ルートが多いとされてゐた。

しかるに皇軍の佛印進駐によつてその最も主要な輸血路である佛印からの物資輸送は、完全に杜絶することとなり、再開したビルマ・ルートも我が空軍の爆撃下に曝され、これに加へて

最近の我が軍による西南沿岸の封鎖強化は、これ等諸海港よりする物資の輸送を、殆んど全く不可能な状態に追ひ込んでしまつた。かくして蔣政權の物資輸血路は、たゞ僅かに西北赤色ルート一本を残すのみとなり、自力なき歐米依存の抗戰策が、如何に儂いものかを如實に見やつけるに至つたのである。



通

貨

東亞經濟圈確立の線に沿ふ新生支那の通貨工作は、まだ硝煙の消えやらぬうちから雄々しくもその火蓋を切り、爾來確實な健全通貨の創生に前進目標を置き、撓まぬ努力を以て前進、早くもその飛躍的な成果を擧げてゐる。即ち、既に蒙疆地區は蒙疆銀行券によつて一色化され、北支地區は昨年三月十日の法幣流通禁止により、廣大な治安地帯の全面に互り中國聯合準備銀行券が流通してゐる。その上更に、中支地區から南支地區にかけて、新支那側の通貨ではないが軍票が廣く使はれてゐるほか、中支地

區には、新支那側の通貨として華興商業銀行券が行はれてゐる。かくて戦火の陰からスク／＼伸びてきた新支那側の通貨、わが軍票等の圓系通貨は、敵性通貨としての法幣を、蒙疆・北支の兩地區において殆んど完全に打倒し、その他の地區においては全面的に壓迫するに至つた。

一、蒙銀券・聯銀券

蒙銀券 蒙疆に於ける通貨工作の順調且つ急速な進捗は蒙疆經濟建設の進展を示す一の指標である。すなはち蒙疆地區は、既に早く戦後

疲弊の復興工作の域を脱し、日本の積極的經濟援助の下に豊富な地下資源と農畜産物の開發工作に躍進し、金融中樞機關として蒙疆銀行を創設、蒙銀券を發行して同地區の特殊性に相應する独自の展開を示してゐる。

この蒙疆銀行は、事變後設立された察南銀行を改組しこれに既存の綏遠平市官錢局と豐業銀行を吸収して、一昨年十二月一日營業を開始したものであるが、本來上半期末現在の貸付金は一億六百餘萬圓、預金は五千四百餘萬圓で、昨年末に比し貸付金三千餘萬圓、預金一千六百餘萬圓を増加してゐる。貸付金の増加は、投資特別會計による蒙古聯合自治政府の特別會社への拂込を主とし、その他農村救濟資金、中小工商業復興資金、春耕資金等民生の調節及び生産の

補助によるものである。

預金の増加は一般預金の増加による。同行の創設當時に引繼いだ預金は、僅か五百餘萬圓に過ぎなかつたから、この一箇年半の間に實に十倍といふ躍進振りである。

また同期間における蒙銀券の發行高は、當初の引繼高九百餘萬圓から五千七百萬圓に増加したが、これは蒙疆經濟の飛躍的發展を賄ふ必然的な増加であり、昨年末などは更に三百餘萬圓も多かつた。

要するに、蒙疆地區における通貨の現状は、蒙疆經濟の發展を語るものである。需要の増加した資金と消費の増大した物資との合理的調整を通して、よく蒙銀券の價值を日本圓等價に維持安定し、蒙疆經濟建設の動脈たる使命を果し

てゐるのである。

聯銀券

北支一億民衆の要望を擔つて、軍閥と兵匪の横行する眞只中に颯爽と登場した臨時政府は、當時三十餘種の各銀行券や各地雜券が雜然と流通する半封建的な通貨制度の弊を一掃し、獨立的な健全通貨の再生を圖り、金融の安定を保つべく中國聯合準備銀行を設立した。

この中國聯銀が一昨年三月十日開業以來、聯銀券の發行によつて北支通貨の統一に成功し、また北支地區の金融中樞機關として新北支經濟建設に寄與した功績は偉大である。これは同行の業績に明示されるところであつて、昨年末現在の貸附金一億六千餘萬圓、預金一億八千餘萬圓を、一昨年末現在と比較すると、この一年間に貸附金は三千餘萬圓から一億三千萬圓近くを

増し、また預金も八千萬圓から約一億圓の増加となつてゐる。

かくも急激な増加を示した貸附金は、北支農産物の確保のため縣公署を通じて農民に貸付けられる春耕資金を始め、棉花資金及び製鹽資金の融資、爲替銀行に對する輸出前貸等の集計であつて、いづれも北支の産業開發や貿易振興の血液となつたものである。預金は北支經濟建設の進展の所産である。これらはいづれも中國聯合準備銀行の新北支經濟建設への寄與と功績を語るものである。

更に同期間における聯銀券の發行高は一億六千餘萬圓より四億五千餘萬圓へ、すなはち二億九千餘萬圓の著増であつた。かく聯銀券が著増したのは、一方政府の威令が奥地に及ぶやうに

なつて、その流通範圍が著るしく擴大し、また經濟開發の進展に伴ふ資本の投下、日本商社の進出、在留邦人の増加による消費増、滿洲出稼人の送金増等によるのであるが、しかし根本的には北支における經濟建設の飛躍的發展と照應するものである。そしてまた、この聯銀券の發展は、幣制確立を目ざして敵性通貨法幣驅逐の猛烈な通貨鬭争をなし、北支における正統通貨としてその普及工作に邁進し來つた果實でもある。

中國聯合準備銀行創設以來の、聯銀券の生長過程は決して坦々たるものではなく、法幣との間に展開される通貨戰を戦ひ抜いた荆棘の道であつた。すなはち聯銀券は、昨年三月十日を期して行はれた法幣の流通禁止によつて國內通貨

としての地歩につき、また昨年三月十一日より實施された北支主要輸出品十二品目に對する爲替集中制、續いて七月十七日を期して行はれた輸出全商品に對するその全面的擴充によつて外貨轉換性を賦與されたが、しかしその對外價値は、天津英佛租界の闇相場において慘落の法幣よりもなほ低位にあつた。またその對内價値も漸次低落して、本年一月の北支卸賣物價指數は昨年三月のそれよりも約七割七分の激騰を示すといふ有様であつた。

しかし本年六月の天津英佛租界問題解決以後、聯銀券の價値に一陽來復の好轉を示す時がきた。すなはち、天津英佛租界問題の解決によつて北支殘存法幣の足場が突崩され、次いで無爲替輸入許可制の實施によつて、既に足場を

失つて急速な没落過程にあつた残存法幣に最後の一撃が加へられ、爾來聯銀券の價值は法幣のそれの上廻はり、その優位を堅持してゐるのである。要するに、北支地區における通貨の現狀は聯銀券が今や完全に敵性通貨法幣の命脈を斷ち、通貨統一の難關を突破して北支唯一の國幣としての地位を獲得してゐる。

二、華興券・軍票

華興券 皇軍の勢力伸張と治安の回復に伴ふ中支經濟の復興に對應して、維新政府によつて華興商業銀行が設立された。同行は、蔣政權側の預金引出制限、被占據地域への法幣持出禁止、被占據地域からの法幣引揚げ等による中支の金融梗塞を打開するため、中支の貿易通商に

關する金融に重點を置いて、輸出手形の買上、輸出前貸を主たる業務とする商業銀行として昨年五月十六日開業したものである。爾來中支經濟の後活に伴つて漸次成長し、昨年未現在の業績に見るも、利益金百二十餘萬圓等を計上、前期の利益金四十餘萬圓と較べれば殆んど三倍する好成績を挙げ、また華興券の發行高も五百餘萬圓を算してゐる。

華興券はその流通性を確保するために、圓とリンクせずに法幣の市場價值と等價にし、百パーセント外貨兌換を武器に、法幣と併存共行の形で實力競争に打つて出た。かくて華興券は建設工作の進捗につれ健全通貨としての職能を發揮、昨年七月二十日には法幣の相つぐ暴落に遂に法幣とのリンクを斷つて對英六片に新たな

基準を求め、法幣の狼狽を他所に、混亂した金融界に堅實な歩みを続け、その發行高も逐月増加を辿つた。

その後も法幣は底なし沼への轉落を續けた。こゝに維新政府では、昨年九月一日から關稅徵收を華興券建に改めたため、一段と華興券流通の激増を招來、一方輿地治安の確立と相まつて、卵、繭などの土産品買付にも多額の使用を見るに至つた。

要するに中支地區における通貨の現狀は、新支那側の通貨として中支經濟建設の血液たるの使命に發足した華興券が、流通關係における制約にもかゝはらず、百パーセント外貨兌換といふ比類ない武器の威力を發揮して着々實績を擧げてゐる。

軍票

中支では、各國の錯綜する權益と複雑なる經濟情勢等によつて、蒙疆や北支におけるやうな形態の新銀行は設立を見るに至らず、わが方の使用通貨は、一部軍票を使用する以外は、専ら日本銀行券を廣く使用するといふ形が相當期間繼續したのであるが、昭和十三年十一月から、日系通貨は上海地域を除くほか、軍票とする方針を樹立し、それによつて日銀券の回收と軍票の使用擴充を圖ることになつた。

しかしてこの工作の進展と相まつて、更に昭和十四年十二月からは上海地區でも軍票のみを使用することとなり、こゝに中支地域は完全に軍票一色化されることとなつた。すなはち、從來日銀券でなされてゐた決済はすべて軍票になり、邦人銀行は日銀券の拂出をなさず、日銀券

を所有してゐる者は、昨年十二月末日までに銀行で軍票に取換へさせられ、更に本年一月一日から邦人銀行が日銀券の受入れを實質的に停止するに至つたので、中支地區から日銀券は全く姿を消し、軍票一色化の工作は完成したのである。

南支地區では、一昨年十月二十一日皇軍の精銳によつて廣東市が攻略され、軍票流通に関する布告が發せられた。續いて一ヶ月後の十一月二十一日に邦人の使用通貨は軍票にのみよることと布告されるに至り、同月二十七日の廣東治安維持委員會の成立や、同月十八日の第一回入港武昌丸による日本有力商社の進出、物資の輸入等によつて軍票の流通が増加し、順次軍票は支那大衆の手に使用されるに至つた。その後本

年三月三十一日には宣撫用物資の賣買は「軍票のみによる」と布告、軍票以外の通貨取引を禁止する軍票維持、強化策が講ぜられ、こゝに廣東を中心とする南支地區における軍票が更に大きな前進を示した。

軍票の前進は、この地區における既存通貨の全面的な後退を意味する。この既存通貨には硬貨に銅貨(仙)、制錢(厘)等があり、また軟貨に蔣政權四銀行の法幣、省及び市銀行の毫幣(小洋)並びに香港ドル紙幣がある。これ等硬軟通貨のうち、香港ドル紙幣は支那人の自國通貨に對する不安から、南支經濟の血液として常に優越の地位を占めてゐた。しかるに今は軍票の進出、更に第二次歐洲大戰の勃發等によつて往時廣東を中心として南支一帶に覇を唱へた香港ド

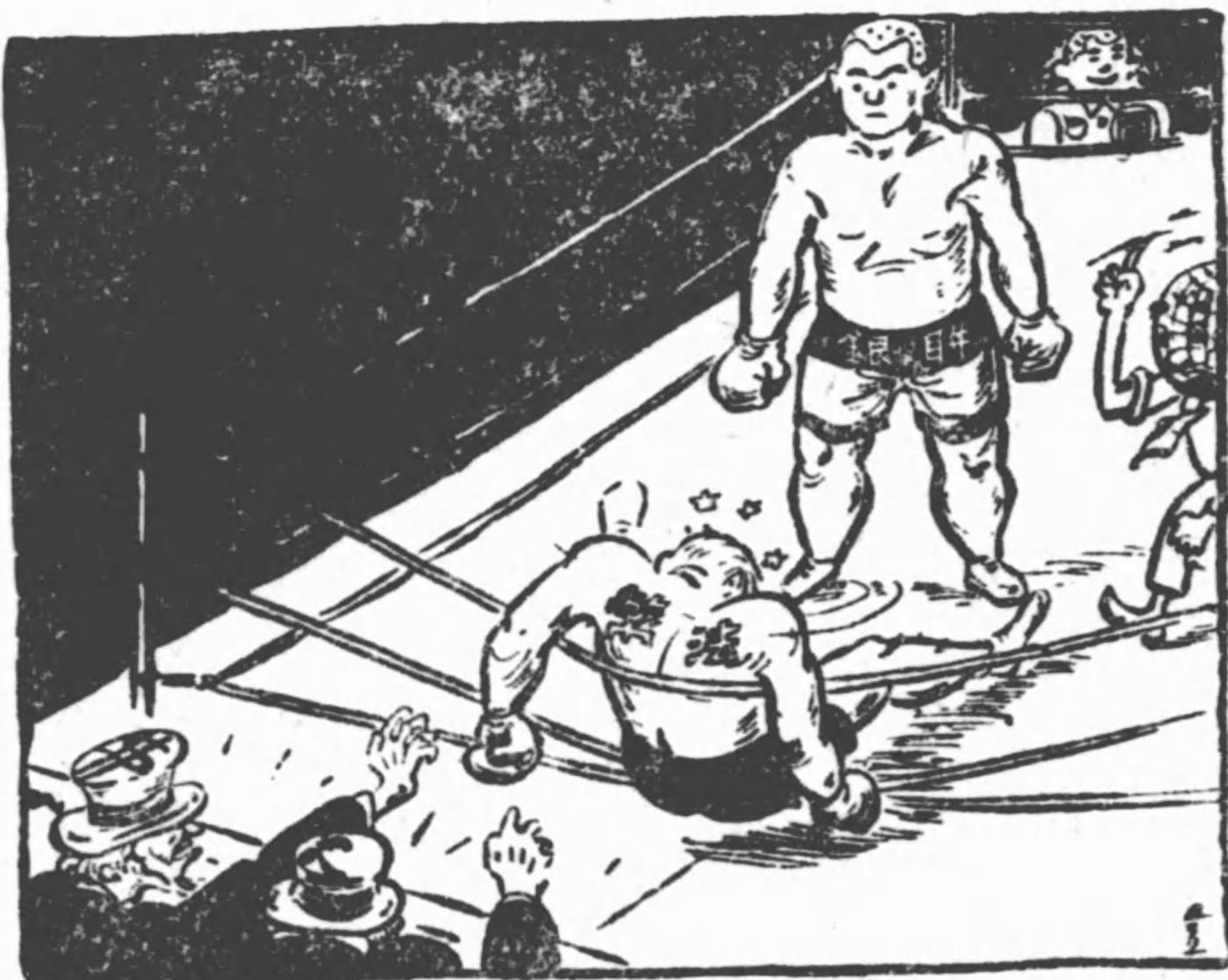
ル紙幣も一朝の夢と化した。要するに、中支及び南支の兩地區における通貨の現状は、一切の既存通貨は昔日の威力を消失しつゝあり、軍票がこれにとつて代つてゐる。

三、敵性通貨法幣

國土の大半を喪失して一地方政權に墮した蔣政權側の通貨たる敵性通貨法幣は、崩落に崩落を重ねながらも、蒙疆及び北支の兩地區を除けば、まだ支那の經濟に流れる血液として氣息奄奄のうちに餘命を保つてゐる。その根據として

- (一) 一九三五年の幣制改革が意外の成功を収めて法幣が支那經濟の骨の髄まで浸透してゐること

- (二) 援蔣國の支援によつて常に外貨で裏づけされてゐること
- (三) 支那の領土が廣大で、皇軍の占據地域以外にまだ大きな流通範圍が残されてゐること



と
 (四) 漠然とではあるが民族意識に支持されてゐること

(五) 蔣政權や援蔣國銀行の法幣支持操作を自由とし、且つこれが防壁となる租界といふ一つの別天地のあること

等が法幣存続の根本の理由として強調される。

とに角法幣は、皇軍占據地域の眞只中に残存し、壓縮された範圍ではあるが、國內通貨並びに貿易通貨としての機能をもち、依然として根強い存在を續けてゐることだけは否定できない事實である。しかしこの事實は決して法幣永遠の生命を保證するものではない。いな全然反對に日に没落崩壊の過程におかれてゐる。法幣の上海における市場相場について言へば、一九三五

年十一月の幣制改革から一昨年の二月まで對英一志二片八分の三を維持してゐたが、この年の三月には八片四分の一に下り、六月には六片四分の一に落ち、七月には四片二分の一に惨落、更に本年五月に三片四分の一と釣瓶落しを演じ、昨今三片十六分の十一搦みに低迷彷徨してゐる實狀である。

かゝる法幣の落莫は、蔣政權が百方手を盡くした擧句の果のことであるから、もはや全くその起死回生は絶望である。蔣政權は事變當初、外貨に轉換し難い小額紙幣の増發をはかり、或ひは小額面の内國公債を政府の軍費その他の支拂にあてたり、また一九三五年の幣制改革の時無効が宣告されて政府系銀行の庫の中で晝寝をしてゐた民間銀行の舊紙幣を引き出して使用し

たりした。これがためあわてて幣制改革當時の法令を一部變更するなどの滑稽さへ演じて、ひたすら法幣發行高の抑制に努めたのである。これと同時に、他方流通高の收縮手段をとり、事變勃發後間もない昭和十二年八月第一次金融安定辦法を發令、預金引出制限を行ひ、昨年六月には第二次金融安定辦法を出すなど、焦躁的苦悶を語る法幣流通高の收縮を圖つたのである。

更に法幣の流通を抑制することから生起する金融の梗塞を緩和し、支那經濟と法幣との聯繫を保つため、第一次金融辦法と同時に最初の匯割制度(振替)を實施し、ついで第二次金融辦法直後には新匯割制度を施行した。

舊匯割制度においては、一種の振替預金勘定で取引を決済させ、新匯割制度では商品及び不

動産を擔保とする一種の流通證券を發行せしめ、銀行及び錢莊の預金や證券類の現金化を極力防いだものである。轉じて貿易の側面においては一昨年三月第一次法幣暴落に伴ひ輸入爲替管理を斷行、さらに昨年七月法幣が四片臺に崩れ行く危急の時に殆んど全面的輸入禁止に等しい輸入制限をなし、他方昨年初め以來輸出税免除辦法をもつて輸出奨勵を行ひ、物資の輸出入を統制して法幣の擁護、外貨取得に大童となつたが、すでに時おそく、迂り行く法幣の價值を支へ得べくもなかつた。

要するに、中支及び南支、更に西南の諸地區における通貨の現状は、蔣政權側の通貨すなはち敵性通貨法幣が、新支那側通貨の發達によつて極度の衰弱を示し、もはや再起絶望の状態に

陥つてゐる。

以上支那における通貨の現状を摘録した。これらの諸事實から生れる幾つかの問題は、新中央政府通貨工作の進路と深い関係があるであらう。すなはち、蒙疆及び北支の兩地區はそれ／＼一色化工作の完成を告げてゐるが、しかし中支地區では、軍票、華興券、法幣相互間の複雑な関係が、同時に新中央政府の成立に伴ふ通貨工作の新たな発足との關聯について多くの問題を提起する。しかして今直ちに法幣を廢すこととは、中支經濟の現状に急激な變化を齎すこととなつて影響も甚大であるから、さし當り法幣の流通を容認しつつも、新中央政府側の通貨對策に關する意見としては「法幣は結局維持すべからざるもの、従つて將來支那の國際關係が是

正される過程において、法幣制度を回收し、統一的通貨制度に到達することは必至であるとするものの如く、またそこに新中央政府通貨工作の前進目標があるのである。

文化工作

一、對支文化工作

今次事變の當初に發表された近衛聲明の東亞新秩序建設のうちに、共同防共、經濟結合の實現と並んで、新文化の創造なる一項があることは、今あらためてこゝで述べるまでもないことであらう。

それならば、こゝで言はれてゐる新文化の創造といふことはどのやうなことであらうか。これはたゞ漠然と新しい文化といつたものでは勿論ない筈である。今次の聖戰のもつてゐる意

義が東亞の新秩序にあり、この新秩序の建設に不可欠な條件としての政治的、經濟的な新しい秩序と並んで、當然に文化的な新しい秩序が創造されねばならぬ決意を現してゐるに外ならない。このやうな必要から、今次の事變の初めから、政治、經濟工作と並んで、文化工作が重要な部面を擔當することになつたのである。といつて、政治、經濟工作が文化工作となんの關係もなくばら／＼なものかといふに、既に東亞の新秩序といふ共同の目標をもつてゐるところから、さうは言へない。そればかりでなく、

政治、經濟工作と文化工作とはもつと密接な、切り離すことのできない関係をもつてゐることをはつきり知らねばならない。例へば、支那の國民生活に新しい經濟的秩序を與へることはもちろん經濟の仕事であるが、この國民生活の生活文化から思想文化に至る廣汎な領域に、東亞の新秩序の理想に適つた新しい内容と形式とを與へることはいふまでもなく文化の仕事である。そして、この二つの工作はどちらが缺けてもうまく行かないのであつて、互ひに助け合ふ關係にあるのである。

このやうに考へると、文化工作の領域が餘りにも廣汎なのに驚かざるを得ないであらう。そればかりでなく、以上のやうな靜的な側面ばかりでなく、われ／＼が現在、東亞新秩序建設の

ための聖戰たる軍事行動を繼續してゐることはいふまでもないから、この軍事行動に直ちに伴つてゐる宣撫工作、治安工作から、聖戰を現在もはゞまうとしてゐる妨害物——これこそ、今次事變の直接の原因なのであるが——に對して、文化の領域で積極的に戦はねばならない状態に置かれてゐるのである。

このやうに、文化工作の理想としてゐること一つであるが、それが實際に活動しなければならぬ場所は全く多岐にわたつてゐる。このことはまた、文化工作を二つに分けられるであらう。一つは、文化工作の理想を明確に豊かに認識するところの理論的な側面と、他の一つは實際に活動するうへの技術的な側面とである。理論のない技術は無方向に終るのみであり、技術

のない理論は対象をほんたうにつかむことができないわけである。そして、全體として理想に適つた組織的で計畫的な文化工作が行はれねばならないのである。

對支文化工作については今までに既に多くの人によつていろいろに論議されてきたし、現在も論議されてゐる。そして、これらの論議が一見してまち／＼のやうに見えることがあるにしても、やはり前記のやうに、實際に活動する場所が多岐にわたつてゐて、従つてまたその技術も多岐にわたらざるを得ないことを示してゐるのである。そのうへに、實際に活動する技術的な側面には、對象、つまり支那民族の性格を知らなければ、善意をもつてやつたところで惡意に解釋されてしまふやうな逆なことになつてし

まふ。だが、この支那民族の性格を知るといふだけでも、多くの人が言つてゐるやうになかなか容易なことではないのである。

最近、或る論者が「對支文化工作には、理論も必要であるが、民衆を相手にするときには實際に見せることが特に重要であつて、それは支那に行つてゐる日本人が現地の生活で日本文化を體現して見せることである」と述べてゐた。そして、論者は續けて、「ところが現地に於ける日本人の文化的生活は成功したものではない」と結論してゐる。このことはなにも新らしく言はれることではないかも知れない。しかしこのことは極めて重要なことであると思はれるのである。といふのは、論者の述べてゐるやうに、いかに日本文化が優秀であつても、それを體現

してゐなければならぬ日本人とその生活のうち
に、それが見えなければ、無いとひとしいわけ
である。そのうへに、現在、日支の關係は政治、
經濟の領域におけるやうに、文化の領域におい
ても、協同提携の下に大陸の文化經營に参加し
てゐるのであつて、現地の日本人とその生活こ
そがこの文化經營の前哨であるといはざるを得
ないのである。

對支文化工作に限らず一體に對外文化工作は
國內文化政策と切り離せるものではない。まし
て、大陸の文化經營に積極的に参加してゐる以
上、切り離せないどころか、對支文化工作を考
へることは、同時に國內文化政策を考へねばな
らないことになるのである。このことは、東亞
の新文化の創造を共同目標としてゐるところか

らも極めて當然であらう。なにも現地にある日
本人ばかりでなく、國內にある日本人も同様に
重要な文化的課題が課せられてゐるのである。
對支文化工作を對岸の話のやうに考へてゐる國
内人があつたならば、これは大變なことである。
が、現地にある日本人は、なんといつても前
哨的位置にある。今春からの渡支者の制限、ま
た北支軍及び中支軍の現地日本人に對する布告
は、このやうな意味で大きな文化工作的意義を
も持つてゐると考へられる。われ／＼日本人は
もつと名譽ある積極的な文化工作的意義を果さ
ねばならない。

二、理論と實際

以上は對支文化工作の一般について書いたの

であるが、次にもう少し具體的問題に入つてみ
よう。

今次の日支間の事變の直接の原因は、既に周
知のやうに、重慶政權のつた抗日、侮日政策
にあることはいふまでもない。この政策の結果
生れた抗日、侮日意識は、現在、對支文化工作が
まづ最初に直面しなければならぬものである。
そして、この抗日、侮日意識を分析すれば、重
慶政權がとつた聯ソ容共と英米依存といふこと
になる。これは政治、經濟政策にいられるばか
りでなく、また當然に文化政策にもいはれるも
のであつた。

聯ソ容共政策は西安事件以後、單に學校教育
ばかりでなく、民衆教育、社會教育にも顯著に
現はれたものであつた。文化政策のうち、教育

——學校教育と民衆教育——の部面は最も重要
な部面であつて、教授は講堂で共產主義を説き、
學生は共產主義の團體を組織するに至るといふ
状態にあつた。事變勃發以後は、民族主義、救
國主義の名の下に一層聯ソ容共政策は續けられ
たのであつて、現在においても重慶の奥地にあ
つて續けられてゐるものである。けれども、聯
ソ容共政策によつて、民族主義、救國主義の達
成どころか、中國の、民族の喪失しかないことは
いふまでもないことであつて、新國民政府が、
和平と反共こそ救國の唯一の手段といつてゐる
のは正しい。

それはともかくとして、以上のやうな聯ソ容
共の文化政策に對立するものとして共同防共な
る文化政策がとられねばならぬことはいふまで

もない。従つて、東亞の新文化の創造の歴史的條件の一つが防共にあることは、これまたいふまでもないことであらう。

新國民政府の成立以前における蒙古聯合自治政府、北支臨時政府、中支維新政府はともに国防共なる文化政策をとつてきたのであつた。例へば、北支臨時政府は成立とともに、黨化排日教育の絶滅、親日滿思想の徹底、防共精神の普及、新民主主義の養成の四大原則をもつて教育の指導方針とする旨を決定したのである。

かゝることは學校施設の復興をとまはねばならぬことであつて、これは北支のみについても、北京大學、北京師範學院、北京女子師範學院、外國語專修學校、北京藝術專科學校などから、多くの日語學校の設立、小學校、中等學校

の復興に至つてゐる現状である。また、民衆教育、民衆組織として、例へば北支においては新民會のごとき文化工作の廣汎な課題を負つた活動的な團體がある。

教育については次項に詳細に述べるので省略するとして、教育とともに文化工作の重要な部面である社會事業（主として醫療防疫）について見るに、これは事變發生とともに、軍關係、蒙疆に於ける善隣協會、北支中支における同仁會、北支の新民會、中支の大民會、紅卍字會を初めとした各種宗教團體などを中心としてなされてゐる。このうち例へば同仁會は、事變以後は施設を北京、天津、上海、南京を初めとして三十箇所に設け、診療及び防疫を全く獻身的に行つてゐる。これらの社會事業とともに當面の

問題となつてゐるのは戦火による難民（都市及び農村）の救済であつて、従來もわが方、新政府、また上海、天津などの特別市の社會局によつてなされてきた。が、なんといつても莫大な數であり、またこの解決は建設的な社會政策、厚生政策を待たなければならぬので施設及び方法は今後の問題である。

これらの社會事業が現在着實になされてゐるとはいへ、これを歌米人の社會事業と比較するとき遜色ある事實は、事實として承認せざるを得ない。従來、これらの社會事業に限らず、歐米の對支文化工作はミッシン事業によつて代表されて來たのであつて、對支文化工作即ちミッシン事業であつた。そして、このミッシン事業なるものは單に宗教の領域ばかりでなく、

教育、社會事業また厚生（この領域に全般的に多くの年月と費用と努力とによつてなされてきたものであつた。かゝる事情が經濟上の歐米依存と並んで、文化上の歐米依存を生ずることになつたのである。

以上のごとき經濟的、また文化的な英米依存といふことは、とりもなほさず半植民地支那の性格を示してゐるに外ならない。

今次聖戰の意義が東亞の新秩序、換言すれば半植民地支那の政治的經濟的解放にあると同時に文化的解放にある以上、文化的歐米依存なるものもまた當然に排除されねばならない。このことは、重慶政權地域内に於ける英米ミッシンの協力的な文化工作や占據地域内に往々にして見られる英米ミッシンの敵性を考へる

とき、この感を一層深くする。だが、既に述べたやうに、わが對支文化工作は歐米諸國に比較するとき立ち遅れてゐたのであつて、今次事變を轉換期として一大飛躍を要求されたのであつた。勿論、事變以後、これは理論的にもまた實際的にも着々と堅實な歩みが進められてゐるとはいへ、あくまでも過程にあることを忘れてはならないのである。

三、新文化の創造

共同防共、歐米依存の排除といふことが今次聖戰の直接的な歴史的性格であり、従つて新文化の創造なる文化工作の思想もかゝる歴史的性格を持たされることは既に述べたところである。そして、かゝる文化工作の遂行をまつて、文化

的にも半植民地支那が始めて獨立した民族國家たるの資格を有することはいふまでもないことである。文化的に外國依存、外國模倣の状態にあるとき獨立した民族國家といふものは考へられないからである。

けれども、共同防共、歐米依存の排除といふことは新文化の歴史的性格ではあるが、これの本質ではないことはこれまた明らかである。新文化の創造とは、東亞の民族文化の眞實の復興に外ならない。

例へば、日支兩國の文化的提携と東亞文教百年の基礎を確立することを目的として成立した東亞文化協議會はその創立宣言のなかで次のやうに述べてゐる。

「我が東亞は數千年の歴史を有し獨特なる文

化體系をなし、しかも絶えず他系の文化を吸収して克く己れが文化に融合せしめ以て自らを一層豊富にするを得たり。然るに最近百年

來一部の者西方科學の利用に資すること大なるに驚きて己がすべてを惜まず、盲従のあまり遂に精神物質共に西方思想に溺れ終らん如き傾向を生じ、同文化系統にある兄弟もただならざる朋國の間にすら一大危難を見るに至れるは洵に痛惜に堪へざるなり。而してその

因りて來れる所以をたづぬるに外來文化に處するに當を得ざるにあること明らかなり。科學の進歩も眞に人類の福をなすありと認むると同時に、我が東亞獨特なる形而上の道の獨り克く巍然として數千年來傳來し來れるはこの人類の深き要求に合するところあるを自覺

せざるべからず。即ち古今の人類を明らかにし傳來の文化を幹として東亞文化の建設に努力邁進せん」

そして、この主旨とする民族文化の保持、發展は新國民政府もまた同様にその文化的課題の核心としてゐるところである。七月二十八日、新國民政府側に於て中日文化協會の成立を見たことは喜ばしい。その趣意書のうちに同様に「日支兩國の文化を融合貫通せしめて一體の東洋文化たらしめる」ことを述べてゐる。

岡倉天心はつとに明治時代に、「アジアは一なり」と言つてゐる。これは東亞が長い歴史と深い根據とをもつてゐる一の文化共同體であること、それが不幸にして西洋文化の侵入とともに混亂してしまつたのであるが、東亞民族の自覺

とともに再び新しい文化共同体たるべきことを要請してゐるのである。

に置かねばならない。

その場合に日本は、そして日本だけが皇道精神に民族生命力のうちに、嘗ての文化共同体を自らのうちに生き／＼と藏し、西洋文化を吸収することによつて自らを喪失することなく、東亞民族の使命のための聖戦を現在戦つてゐるのである。従つて、日支提携によつて新しい東亞文化を創造するに當つても、日本の積極的参加と指導とに待たざるを得ないのであり、既にこの大事業は始められてゐる。

従來世界といへばヨーロッパのことであり、文化といへばヨーロッパ文化のことであつた。だが、今こそ決定的にかゝる古い秩序と概念を破壊して、東亞民族と東亞文化とを正しい位置

教

育

中國最近の教育で、先づ我々の腦裡に浮ぶものは、蔣介石國民政府がとつてきた、いはゆる抗日教育であらう。今事變も一面において、その劫果であるともいへるのである。

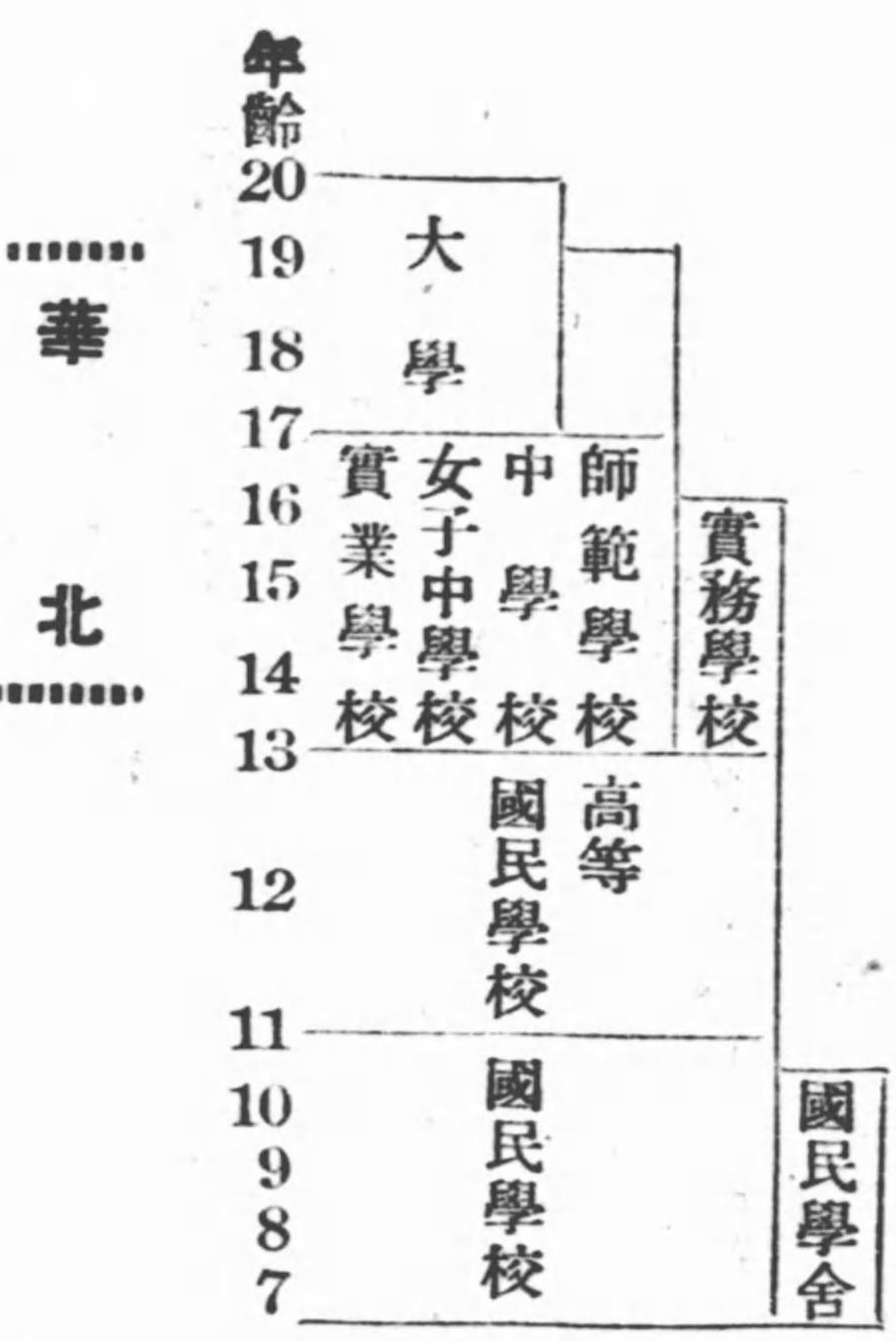
然し教育は性質が地味である關係上、やゝもすれば等閑に付され易い。がそれによつて惹き起された事態がかくの如く強大であるのを見れば、決して等閑に付すわけにはゆかない。教育の影響はかくの如く強大ではあるが、その現れるのは常に相當年數が經つて後のことである。従つて教育は、現状を如何にするかの問題

が重要であると共に、根本的大本の樹立の問題がより重要となる。この意味において、占領地域内の教育の問題は、現状の是正、即ち中國人をあやまらしめた黨化、抗日、歐化、容共教育を抜本塞源的に是正する方策と、東亞、否世界の大義に立脚して、古人が國の寶とまでいつた親仁善隣の理想を實現する道とに深く思ひを致し、これが實現に邁進することにある。これが、東洋に新しい秩序が建設されるための教育を如何にするかの問題である。

而してこの問題の解決は、新中國に要請され

- （五）日本語を國語の一として學習せしむ
- （六）科學的陶冶を重視し、勤勞愛好の精神を涵養し、資源開發、民生向上の根源とする

學校系統表(將來のもの)



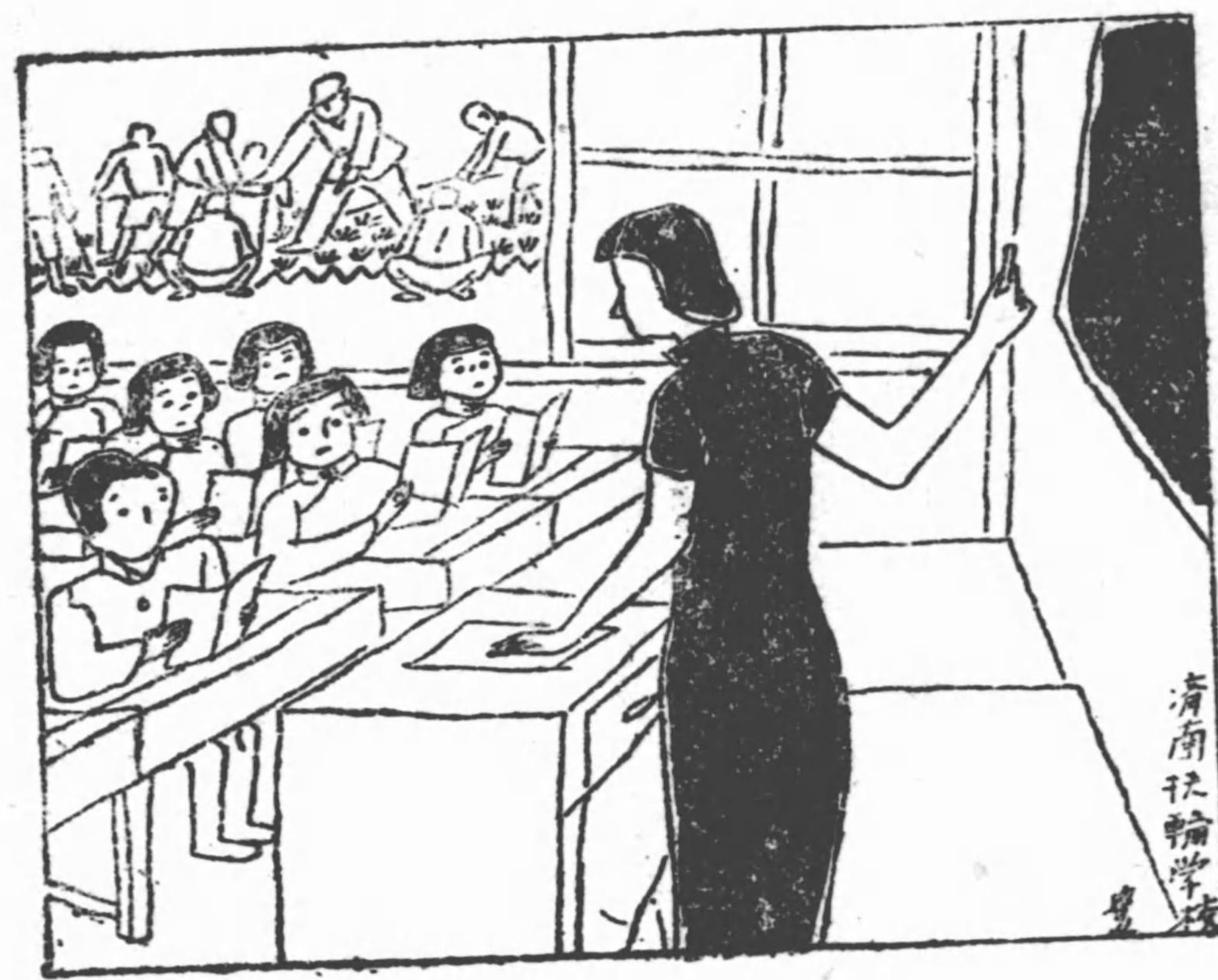
華北でも、從來の歐米依存、容共、抗日政策

を改める事が東亞新秩序建設に要請さるべき根本義である以上、教育の方針も亦この線に沿うて定められねばならない。この方針に則り、新支那建設に邁進する人材を育成することが今日最も急を要する。このために華北では先づ教員養成機關を刷新して東亞新秩序建設の理想に熱意を有する新らしい教員の養成、既成教員の再教育に對する施設を強化擴充するとともに、教科書に一大改革を加へ、在來の抗日的のものを一掃して、新らしい意圖のもとに編纂されたものを使用せしめることに専心努力してゐる。

初等教育は、文盲階級や教育程度の極めて低い民衆の多いのに鑑みて、實施には餘程の注意が肝要とされてゐる。

高等教育は、從來の組織の不統一に鑑み、劃

一の弊に墮せしめないで、且つ系統あるものと、教科目を整へると同時に督學機關を充實し



新支那讀本

て、その機能を充分發揮せしめることが肝要である。

第三國人經營の學校に對しては、東亞新秩序の建設に即應するやうに指導し、且つこれを監督せねばならぬことはいふまでもない。

教育の内容 は建設工作をできるだけ速かに完成する必要上、これに直接關係のある部門の攻究に重點をおく。即ち抽象論や概念の遊戯は嚴に戒め、實科的教育を重んじ、現實に即した教育を實施せねばならぬ。

この見地から東洋本來の利用厚生りようこうせいの學を特に獎勵し、これに自然科學を參酌さんしゃくせねばならぬ。また各種の學校を新秩序に參贊する思想的人物を鍛鍊する道場とすると共に、専門家技術者を育成する道場ともせねばならぬ。特に高等教育

機關においては中國の實情に即して、農道、醫道に力點をおくことが最も大事なことである。

日本語の普及 は將來の日支關係から考へて最も重要であるから、初等教育から日本語を正科として課するのを原則としてゐる。

以上を要約すると華北の教育問題は、

- (イ) 從來の黨化排日教育の取締の嚴行
- (ロ) 學校の恢復。これは先づ小學校より着手し、順次中學、大學に及ぶこととする。大學の開校は政府に申請し、教育部の指揮を受けることとする

- (ハ) 小、中學校の學制年限は暫時初級小學四年、高級小學二年、初級中學三年、高級中學三年の舊制によつて處理する

- (ニ) 職業教育の實踐、衛生教育の實施等に重

きをおく

- (ホ) 原則として中等學校以上の男女共學を禁止する

- (ヘ) 女子は特に婦徳の教養に重きをおく

- (ト) 體育を獎勵する

- (チ) 學校少年團の設置及び訓練の實施

- (リ) 新教科書の採用

- (ヌ) 中小學校教員の養成と再教育

- (ル) 外國系學校の監督指導

等がその重要なものとなる

教科目の變更 (イ)日本語を必須科目として小學初級一年より課し、(但し地方の事情によつて初級三年より課することを得) (ロ)公民科(黨化を主目的としておいたもの)を廢止して修身科をおき、新定の修身教科書を用ひしめ、

別に孝經、四書及び五經を授けることを得しむ

- (ハ) 中等學校では英語の教授時數を從來の半數以下にするとともに隨意科に改め、日本語を必須科目とし、軍事教練や、童子軍訓練を廢し、國術(通背、太極、形意等の拳法)のうち一を選んで行ふ等が現在における教科目變更の主な點である。

教科書の編纂 臨時政府成立の後、教育部の

直轄の編審會を設置し、總長自から會長となり我が文部省よりは二名の専門家を送り中國人よりは二十數名の編審員を任命して、小、中、師範學校教科書の編纂に着手した。全教科書約百五十種の編纂は一應これを完成し昭和十三年度一學期からこれを使用せしめた。その後は引き続き第二次第三次と、新編と修正とに力めてゐる。

る。

……華 中……

華中における教育實施方針は大體次の通りである。

- (一) 普通教育 では中國歴代の聖賢君子の言行を根據として國民道德の基礎を固め、兼ねて國民生活の基本となる知識技能を培養し、利用厚生の実を擧げることをして主要目的とする。

- (二) 師範教育 は國民普通教育の根本となるから、最も嚴格なる心身の鍛鍊と最も正しい徳性を養はせ、一般國民の道德と學術との健全な師表たるべき人物を養成せねばならぬ。従つてできるだけ獨立の施設をなす。

(三) 高等教育 大學教育は純粹な科學の研究に重點を置き、高等專門教育は實用といふ事に重點をおいて専門の知識と技能とを授け、併せて國家社會人としての健全な人格を養成する。

(四) 社會教育 は學校教育の補助とし、國民に國際情勢を認識させ、善隣に親しまねばならぬ道を知らせる。

(五) 農業教育 中國は農を以て立國とする。農を擴めるには、農業教育機關と產業界との緊密な連繫のもとに、積極的に推行する必要があるので、さういふ方面の教育を充實する。特に農村では (一) 德業相勸む、(二) 過失相規す、(三) 禮俗相交はる、(四) 患難相恤むの中國固有の美風を養はせる。

華中の中國側教育への指導要領は、從來の教育の弊を矯正し、教育の實際化、科學教育の振興、女子教育の實施を圖ることであるが、更に

重大な問題は教育を通じて東亞新秩序建設の意義を徹底せしめることである。而して實際の指導としては、顧問部を通じて新中央政府教育部及び直轄諸學校(教員養成所、模範中學校、模範女子中學校等)に顧問、屬員を配し内面指導に當つてゐる。特に省特別市政府に對しては、顧問部から地方顧問を派して各省市府教育廳局の内面指導に當つてゐる。

新教科書の編纂 東洋道義精神の強調、共產黨及び歪曲された三民主義の排撃、排日思想の掃、歐米依存の風の打破、教育の實際化等の立場から、維新政府は新教科書の改訂編纂を教

厦門

育の基本事業の一として斷行し、現に各小中學校ではその新しい國定小學教科書、中學教本を使用し、現在の新中央政府に引繼がれてゐる。

諸學校の復興 華中における小中學校の復興も漸く軌道に乗り、昭和十四年十二月末における復興狀況は次の通りである。

種別	立別	校數	學級數	教職員數	生徒數
小學校	公立	八三四		三、七三三	一五八、四七五
	私立	三九三		一、四八九	三九、〇五七
中學校	公立	二三		八八	四、四六
	私立	五		六五	四九九

また専科以上の學校の復興は次の通りである。

所在地	南京	上海	揚州	杭州	計
公立學校數	六	四	一	一	一二
私立學校數					

新支那讀本

厦門における教育指導の要領は大體次の諸點である。

(一) 從來の教育の内容を刷新し、わが國文化の本質を攝收せしめ、新中國建設の基本精神を闡明せしめると共に、黨化抗日、歐化容共教育の弊を芟除させる。

(二) 教育の主知を改め、徳性の徹底を期する爲め、修身科を特設する。

(三) 制度方面では、初等教育機關の充實、高等教育機關の統制、督學機關の整備、外國留學制度の改善等に努力する。

直接の指導 事變により全部一時中絶してゐたが、治安の回復と共に着々復興してきたので、

顧問や顧問補佐官等を配し内面指導に當つてゐる。

臺灣との關係 當地域は地理上臺灣と深い關係がある。従つて臺灣總督府は、夙に該地方の教育に關心を持ち日本語の普及を圖ると共に、三十年前から籍民（臺灣に籍を有する者）教育機關として福州、厦門、汕頭に初等學校を經營して來てゐる。そこでは若干の中國人の子弟の共學するものもあつた。この學校は籍民教育機關である關係上、臺灣の初等學校と全く同様のもので、日本語で教育するものである。今日厦門の學校は總て日本語を正科とするやうになつたので、これ等は當然重要な地位を占めるやうになつた。

……日本語普及の問題……

支那各地に、日本語の普及徹底を圖ることは政治、文化、經濟の各方面において日支人間の提携を強化し、日本語を通じて日本の思想文化の本質を體得せしめるために肝要なことである。従つてこれは新東亞建設の先決問題であり、且つ永久的な重要事業である。事變前の日本語の學習は誠に微々たるものであつたが、今日では親日と不可分に日本語習得が必要となり、これに日本語習得者の活躍等に刺戟され、中國各地において日本語熱が盛んとなつた。この際、いにこれが普及徹底を期さねばならぬ。特に既述の通り日本語が小中學校の正科として課せられてゐるに於てをやである。こゝにおいて我が

文部省では昨年十一月十一日圖書局に日本語教科用圖書調査會を設け、日本語普及の目的に供する圖書の編纂に當つてゐる。

なほ中國における日本語教育施設の整備は緊急を要する問題である。即ち、これ等を現狀に即するものとすると共に、わが根本方策に基づき充分にその使命を達せしめねばならぬ。今後建設が進むに従つてますます本事業の擴大強化を期さねばならない。

租界發達の歴史

租界は租借地と共に支那の領土間に在る一種特異な小國行政地域である。後年次第に政治的色彩が濃厚になつて牢固として抜き難き支那の禍根の一つとなつたが、租借地のやうに明らかに軍事的政治的意圖を以て獲得したものとはこと變り、支那の對外通商に附隨して發生し、開港と共に發達した専ら經濟的性質のものであつた。即ち外國人が支那人と雜居する不便を避け、居住、貿易を確保する目的で、支那政府と外

國政府との間の條約協定又は取極めを以て特に設けた一定の地域で、外國側はこの目的を遂げるに必要な限度内で自治的な行政權を行使し得るのであるが、この地域と雖も、もとより支那の領土の一部であるから、件の自治的行政は單に警察、道路、衛生等の地方行政の範圍に留まるといふのが原則である。だが現在では、この限度を越えて随分廣汎な權能が行はれてゐる。

租界にはコンセツションとセツルメントの二種がある。前者は支那政府が外國政府に對して一定地域を讓渡するもので、讓渡を受けた外國

政府はこの地域を更に分割し、自國の領事の手を経て各個人に拂下げるものである。この讓渡は外觀は讓渡でも法理上領土の割讓を意味せず、外國政府はその地域を永代租借地する形式になつてゐて、年々一定の地稅を支那政府に納付する義務を負はされてゐる。上海の佛租界、廣東、漢口、重慶、杭州、蘇州、天津、福州等に於ける專管租界がそれである。前者に反してセツルメントの方は、「植民する」といふ意味から出來た稱呼の字義通り、支那政府から外國人居住の地域として公許した「居住のために留保された地域」で、コンセツションの場合のやうな支那政府と外國政府との間に土地貸借の關係はない。従つて、この地域内の土地を外國人が永借しようといふ場合には、原所有者たる支那人

と直接に交渉することを必要とし、支那官憲とその外國人の所屬國の領事とが單にその交渉手續に斡旋の勞を執るに留まる。上海の共同租界、廈門、沙市等がこれに當る。租界にはまた租界行政權の所屬國の單複によつて、一國專管租界と列國共同租界との二つの名稱がある。悠久五千年の歴史を有する支那は、太古から歐洲大陸との交通の記録を持つてゐるが、それはいづれも陸路の交通で、最初に海路の交通を開いたのはポルトガル人で、一五一七年澳門の西南上川島で始めて通商を許されて以來、ポルトガル人は續々として渡來し、漸次活動範圍を擴大し、諸處にその居留地らしいものを認められてはゐたが、その頃のポルトガル人の地位は條約によつて保證されたものでなく、單に支那

側から恩惠的好意的にその居住貿易を許されて
 ゐただけのもので、わづかに若干の自治を享有
 したに過ぎなかつた。元來支那は有史以來し
 しば外國の侵寇を蒙り、苦い経験を重ねてゐる
 のと、特有の尊大な中華思想とで傳統的に外國
 人の渡來を嫌つてゐるところへ、當時支那へ來
 航したポルトガル人の多くが粗野低級で、場合
 によつては敢へて海賊的行爲すらも辭さなかつ
 たから、至る處で支那人の排斥を受け、後年條
 約によつてその領有を認めさせた澳門を除い
 て、今日ではどこにも往昔の活動の痕跡すら殘
 つてゐない。

かういふ具合で、支那渡來の先驅者たるポル
 トガル人の殘した惡印象は、その後に来る者に
 惡影響を及ぼし、相競うて通商を求めて來航し

隘な商館區域が、今日支那の手に餘るほど勢力
 の強大になつた外國租界の發祥地となつたこと
 である。

一八四〇—四二年の阿片戰爭は、周知の通り
 東印度會社が、生産過剰で持餘した阿片を支那
 の拒絶を冒して密輸し、兩廣總督林則徐が二萬
 函の阿片を焼き棄てたといふのが事の起りであ
 るが、戰爭の目的は、阿片の始末もさることな
 がら、外交上貿易上の對等權の獲得に在つたの
 で、西歐諸國多年の要望を代表したものであつ
 た。従つて、戦後締結された英支南京條約によ
 つて、廣東、福州、廈門、上海、寧波の五港が
 開かれ、支那に於ける外國人に對し「何等の障
 礙又は制限なく」通商居住する權利が、對等の
 地位に於て許與されることになつたのは至極も

た英、佛、オランダ、ノールウエーの諸國人悉
 く限りなき迫害を受けた。要するに、十七世紀
 は歐洲諸國が支那に對して門戶の開放と、公正
 な待遇とを求めて最も苦闘した時代である。わ
 づかに一七一五年英國が東印度會社の手を通じ
 て廣東地方官憲と互市協定を締結し、それ以來
 廣東貿易に進出し、同時に英國以外の外國商社
 もある程度の通商を許されたが、もとより對等
 の地位を認めた協定でなく、相變らず一種の恩
 惠で、非常に不自由な制度であつたし、居住者
 は國人との雜居を許されず、不便な陋穢な一隅
 に押込められて恐ろしく屈辱的な待遇を與へら
 れた。たゞこゝに注意すべきことは、この陋穢
 の一隅に於て外國商人は支那商人から高い家賃
 を拂つて商館を借りてゐたのであるが、この狹

つとも成行きで、支那の開港史上に特筆すべ
 き重要事である。

而して更に外國人の居住を安全且つ確固なら
 しめるために、翌年の追加條約で英國は租界開
 設の權利を獲得し以て今日の基礎を固めた。引
 續いて英佛聯合戰役の結果、天津・芝罘の開港
 となり、英佛兩國が殆んど同時に天津租界を設
 定し、爾來英國を始め列強は競つて租界設定に
 努め、更に日清戰役後の利權獲得戦は一層この
 勢ひを強め、世界大戰直前には租界設定國は八
 ケ國、各地の租界總數二十八ヶ所といふ盛況で
 あつた。

租界回收運動の勃興

ところで、元來外國人の居住貿易權の確立に

端を被した租界は、列強の支那に對する猛烈な
 平和侵略と共に、次第に外國の政治的權益と化
 し、支那側の言葉でいふと「租界はその發達に
 連れて外國の領土の如くなり、支那の國家主權
 は時と共に侵害の度を深められ、租界の支那人
 は不平等の待遇を受けるやうになつた。且つま
 た租界の治外法權を利用して租界は軍界・政界
 の亡命者の隠れ場所となり、内亂陰謀の中心と
 もなり、一方租界内に於ける外國産業の發達は
 支那の産業を脅威するものとも考へられる」に
 至り、こゝに世界大戰後の世界的反帝國主義風
 潮と相俟つて、支那に勃然としていはゆる不平
 等條約撤廢運動が起つて來て、租界回收の題目
 が、領事裁判權の撤廢、租借地の回收、内河航
 行權の恢復などと共に、國民政府の外交建設計

畫中の重要な一項目として國民運動の大なる對
 象物となり、機會ある毎に成功の歩を進め、今
 次支那事變直前までにその實を擧げたもの十租
 界に及び、又まだ回收を完うしないものにも支
 那側の勢力がだんくく侵潤しつゝあつた。
 最初に回收したのは、天津に於ける獨逸二
 國、漢口に於ける獨の租界で、これ等は世界大
 戰に當つて支那がこの二國に對して宣戰を布告
 した結果である。次は天津、漢口に於けるロシ
 アの租界で、これは一九一七年の革命から、一
 時支那に於けるロシアの代表者と稱するものが
 二人も三人も出來たので、支那政府はロシアの
 正當政府の出現までの暫行的措置として、在支
 ロシア公使館、領事館を閉鎖し、租界の行政は
 ロシアの正當政府樹立まで支那政府が一時代行

することになつたが、その後成立した正當政府
 たるソ聯政府が、舊帝政時代に取得した一切の
 利權を放棄したので、自然に支那に回收される
 ことになつた。次は英國で、一九二六年の國民
 革命軍の第三次北伐決行と同時に、英國が「打
 倒帝國主義」の槍玉に擧げられ、廣東を始めと
 して、英國の在支利權の中樞たる揚子江流域の
 各地に引續き起つた猛烈な排英暴動の結果、漢
 口、九江、鎮江三市に於ける租界を支那に取上
 げられた。天津に於けるベルギーの租界は、開
 設以來二十餘年を経ても、なほ大部分は茫々た
 る草原の有様であつたので、經營に困難を感じ
 遽に自發的に還付した。以上現存及び回收租界
 を表示すると次のやうになる。

現存租界一覽表

新支那讀本

所在地	專管國	設定年度	面積(坪)
上海	共同租界 (英國租界として一八四五年)	一八六三年	六、七八八、九三〇
天津	佛 國	一八四九年	三、〇〇一、三九八
	英 國	一八六一年	一、一三四、六〇〇
	佛 國	一八六一年	三九三、三九〇
	日 本	一八九八年	三九八、二二六
	伊太利	一九〇二年	一四一、〇九三
漢口	佛 國	一八九六年	一〇九、二八八
	日 本	一八九八年	一二四、一六二
廣東	英 國	一八六一年	四二、八四六
	佛 國	一八六一年	一一、〇一八
廈門	共同租界 (鼓浪嶼)	一九〇二年	(未定)
燕 湖	日 本	一八九六年	四〇、〇〇〇
蘇 州	英 國	一九〇四年	一三二、〇〇〇
蘇 州	日 本	一八九七年	一五〇、〇〇〇
杭 州	日 本	一八九七年	一三〇、〇〇〇
沙 市	日 本	一八九八年	一一七、六〇〇
福 州	日 本	一八九九年	二四、九五〇
重 慶	日 本	一九〇一年	一四三、〇八〇

同收租界一覽表

所在地	舊專管國	新名稱	設定年度	同收年度
天津	獨	天津第一特別區	一八五五年	一九一九年
	獨	天津第二特別區	一九〇三年	一九一九年
	露	天津第三特別區	一八九九年	一九二四年
	白	天津第四特別區	一九〇二年	一九二九年
漢口	獨	漢口第一特別區	一八五五年	一九一九年
	露	漢口第一特別區	一八九九年	一九二四年
	英	漢口第三特別區	一八三三年	一九二〇年
鎮江	英		一八六二年	一九一九年
九江	英		一八六二年	一九二〇年
廈門	英		一八六二年	一九二〇年

外國租界の敵性

租界が法理上支那の領土主權の一部讓渡でないことは勿論であるとしても、事實上宛然たる「國中の小國」であつて、夙に支那側が主張しつ

擧げるに違ない有様である。

殊に我が國として放置すべからざるは、今次の支那事變このかた、租界が抗日策謀の中心となつて著るしく敵性を發揮したことであつて、わが聖戰の遂行を碍げ東亞新秩序の建設を阻みつゝあることである。即ち、天津の英租界がその無電を以て、日本軍の作戰行動を香港、重慶に廻報したり、北支に蠢動する遊撃隊に便宜を圖つたり、臨時政府要人の暗殺を企てる不逞分子を匿したり、北支共產匪に對するコミンテルンの資金供給地點ともなり、聯銀券を偽造して金融攪亂を圖つたり、舊法幣の流通を援護して北支の物價を昂騰させ、抗日的言論教育の横行を默許するなど、策動、工作に至らざるなき有様であつた。而して昨年三四月の頃、我が軍の下士

新支那讀本

つある如く主權の侵害であることは否めない。もとゞ居住、貿易、生命、財産の保護を目的として設定されたものではあるが、列國がこれを以て支那に於ける政治的發展の根據地とする下心のあつたことも亦事實で、多年に亙る支那の政情の不安定が加ふる事態を助成したことは争へない。

租界中最も勢力の強大な上海共同租界に於て、英米人の横暴は實に目に餘るものがある。即ち、その絶對的優越な勢力を利用して永年租界の行政を獨占し、市參事會員選舉制度の不合理的、職員の位置の不當な占據、行政費の過當な支出、不可解な豫算、曖昧な會計監督、英米人職員の過大な俸給、教育費の各國人割當の不均衡、租界當局と特許企業會社との秘密關係等、

官兵三名が天津市内に於て國共側テロ團の毒刃の下に斃れ、また中國聯合準備銀行經理兼天津海關監督程錫庚氏が昨年四月九日英租界で暗殺された。しかるに租界當局は、その下手人たる抗日支那人の引渡しを抗拒し、我が總領事館當局の條理を盡した最後の外交交渉にも何等の誠意を示さなかつたため、遂に我が軍當局は昨年六月十四日以来、英佛租界に通ずる道路の交通を制限せねばならぬこととなり、本年五月漸くその鐵條網を撤去したことは租界の敵性のいかに執拗であるかを物語つてゐる。

上海もまた同様であつて、多數の抗日漢字新聞が租界内で發行されつゝあつて、排日宣傳に日もこれ足らぬ有様であるし、また諸大學は假校舍を租界内に設けて、相變らず排日教育に餘

念なく、舊政權の國慶日、國耻記念日には、我が軍の力が租界内に及ばないのを幸ひに、事變前にも増して青天白日旗が戸毎に掲げられ、これ等の機會に親日要人が狙撃され、爆彈事件が頻發するといふ有様である。

かういふ事態は、我が方としても更生國民政府としても、永くこのまゝに放任して置くべきでないのはいふまでもなく、一舉にして全租界を回收し、直接新政權の治下に收め得れば最も理想的であるが、然らずとも、速かに一大英斷を以て東亞新秩序建設の障害にならぬやうに處理すべき必要がある。

新國民政府の方針

これについて、純正國民黨並びに汪政府の機

關紙たる『中華日報』の「租界回收運動」と題する去る三月九日の社説は、當に汪政府の方針を覺らしめるものである。その要旨に曰く、

『國民政府は還都したが、國家は未だ統一せず全面的和平にはまだ到達してゐない。目下の努力は第一に租界の回收である。租界の回收によつて始めて重慶政權を引張つてゐる絲を切斷することが出来るし、買辦階級の活動根據地を消滅させることも出来るし、かくして國家を統一し全國和平に到達し得る。

重慶は何によつてまだ抗戰してゐるかと言へば、それは帝國主義者の支持と沿海商工業区の物力によつてである。帝國主義者の最も顯著なる援助は借款である。但し借

款には限度がある。そこで重要なのは、帝國主義者の在華買辦網の利用であり、例の如く沿海商工業区の物力を吸収し、それを以て重慶政府を支持するためである。この一切の活動の據點は租界である。例を擧げて言へば、重慶は抗戰の繼續によつて紙幣濫發を續行し、有意的に通貨膨脹政策を取つてゐるが、これは今日に於ては既に戰費の主要の來源となつてゐる。通貨膨脹はつまり一種の變相的徵稅である。重慶政府は今や沿海商工業區に於ける徵稅は不可能である。但し繼續不斷に紙幣を濫發することが出来、それが租界内の銀行を通過して沿海商工業區に普及してゐることは奥地と同様である。

上海に住んでゐる人が、假りに一千元を持つてゐるとすれば、それは紙幣の不斷の暴落によつて原價値は二、三百元に過ぎず、六、七百元は紙幣と共に暴落して行つてゐるのである。どこへ行つてゐるかと言へば、蔣介石の處へ行つて底なしの抗戰のために浪費されてゐるのである。俸給生活者と賃銀生活者は紙幣の暴落により、例外なしに皆、蔣介石に捐金を納めてゐるわけだ。蔣介石がどうしてさういふことをなし得るか、租界が存在するからである。

われ／＼は既に幾度も、中國は第三國に對して、必ず文明國家として盡すべき義務を盡すといふことを聲明したが、今われわれは更に第三國に對して必ず文明國家とし

て享けるべき権利を爭取するといふことを聲明したい。租界の存在は中國に取つて既に一箇の甚だしき恥辱である。第三國が租界を利用して中國の内政に干渉する事實は、更にわれ／＼をして租界を廢除するに非ざれば、租界の現状を糾正すべき可能性なきものと認めさせる。

而して、歐洲戰によつて極東に於ける英佛の動作を不便ならしめ、米國また對ソ關係、對英關係の未確定によつて對日態度を決定し兼ねてゐる現在は、租界の回收に取つて阻力最も小なる時である。我等は既に國家統一、全國和平の決心をしてゐる以上、租界の回收は目下の最も切迫した任務である。

蔣政權下奧地の狀況

夢物語となつた歐米依存

事變發生以來既に三年餘、とにかくこゝまで頑張つてきた蔣政權は、一應、敵ながらも天晴れと、ほめてもよからうが、その頑張りにもいよいよ終止符の打たれる日が來たやうだ。特に歐洲大戰の勃發、それにつゞく新國民政府の成立以來、蔣政權をめぐる内外の情勢は一路悪い方へ悪い方へと、急速度に進むだけで、たうとう八方塞がりの状態に落ち込んでしまつた。蔣政權にとつては、まことに以てお氣の毒な話だ

が、凡そ誤まつた政治の辿る運命とは、かうしたものだ。

元來、蔣政權の抗戦力の何十パーセントかは、英、米、佛、ソ聯等の援蔣國家群に依存してゐた。即ち、これらの國に對しあらゆるやりくりで得た借金と、國產原料品、例へば桐油、豚毛、茶葉、鑛産物等を輸出して得た代金、それに華僑の送金——これが蔣政權の借方勘定で——この資金を以て、軍需資材、工業完成品、建設資材等を、同様に前述の國々から、貸方勘定として輸入すること、これが蔣政權抗戦のからくり

である。だから、蔣政権にとつては、これら援蔣國家群の動向如何は文字通り、頼みの綱であつたわけである。ところが、歐洲大戰が本格化して以來、周知のやうに、まづフランスは完全に援助能力を失つてしまひ、英國も足もとに火がついた恰好で、到底今までのやうな援蔣行爲を續けるどころではなくなつた。頼むは米國とソ聯であるが、これとて大戰の發展につれ、今のところ蔣政権に對する腰の入れ方に、さう大した期待は持てない。

これだけでも蔣政権にとつては大痛事なので、これに加へて日本軍による對外ルートの遮断がある。即ち、皇軍は支那沿岸封鎖につゞき、揚子江といふ支那の大動脈を抑へ、さらに武漢、廣東の攻略によつて粵漢線といふ輸血路を

叩きつぶしてしまつたが、最近にいたつては、昨年末の南寧攻略と去る六月フランス政府との交渉により、佛印からの物資輸送を完全に杜絶させることに成功し、更に續いて皇軍は佛印に平和的進駐をしたのである。かうして、蔣政権にとつては、いまや残された對外ルートは僅かにソ聯との西北ルートが一本あるだけで、主なる援蔣國家群との結び付きは完全に断ち切られてしまつた。蔣政権得意の「歐米依存」は「ありし日の夢物語」になつたといふわけである。

交通第一から生産第一へ

勿論、蔣政権としては、このまゝで引き下るわけには行かない。そこで第一には、あくまで何とかして對外ルートを確保すべく努力するだ

らう。それにはまづ残された西北ルートの擴充(例へばウラジオストック經由)といふことが考へられる。しかし、前述のソ聯の援助如何は、歐洲大戰の動向に左右されるといふ點はいま問はないとしても、問題になるのは、ソ聯に頼ることは結局共産黨の力を強めることになるのであつて、この點だけでも西北ルートに餘り深入りすることは、蔣政権にとつては痛し痒しといはねばならぬ。

そこで残る方法は、支那の廣大な土地面積、複雑な地形、べら棒に安い勞働力を、極度に利用することによつて、日本軍の目をかすめて行ふいはゆる密輸入、密輸出の形式による分散的な對外ルートの設定である。これが残されたたつた一つの方法であるが、これが抗戦にとつて

どれだけ役に立つか、問題にならぬ程度だといふことは言ふ必要もなからう。しかもそれすら最近是我が海軍によつて、しらみつぶしに壊滅されてゐる。

かくして蔣政権側の對策としては、否應なしに、次のやうな方法をとらざるを得なくなる。即ち、それが可能か不可能か、有利であるか不利であるか等の顧慮は一切抜きにして、抗戦の基礎を國內に求めること、これである。

かつて蔣政権の抗戦經濟建設の合言葉は「交通第一」といふことであつた。言ふ意味は、交通路を擴充、確保し、援蔣國家群に結び付くことによつて抗戦しようといふのであつたが、今やこれが不可能となつた結果「交通第一」は意味をなさなくなり、これに代つて「生産第一」、

即ち、自力で國內生産力を高め、自給自足の經濟を實現し、こゝに抗戰の基礎を置かうといふ政策が、新らしく登場したのである。いままで何十パーセントかを外國に頼つてゐた抗戰を、今度は百パーセント自前でやらうといふのである。いや、もつと正確にいふと、否でも應でも、さうせざるを得ない窮境に追ひ込まれたのだ。かういふ意味に於て、蔣政權の根據地たる西南五省——奥地の狀況如何は、蔣政權の今後を卜するに當つて、決定的な意義を持つにいたつたといふべきである。

かういふことを頭に置いて、以下奥地の狀況を見てゆかうとするのであるが、こゝでは専ら次の二つの事に重點を置かう。即ち、一つは、

るのであるが、いま奥地最大の工業地帯たる重慶附近の軍需工業について、その概要を見よう。

昨年八月現在、重慶附近に存在する製鐵、機械工場は八十五工場で、このうち鑄鐵専門工場十四、電燈工場三、残り六十八工場は機械工場と鑄鐵を兼ねた機械鐵工場であつた。この八十五工場の中、移轉工場四十三、在來工場二十四、新設工場十八（新設十八工場中、十四工場は移轉資本家、四工場が重慶人の手により設立された）で、移轉工場がその中心をなしてゐることが知られる。ところで、これらの工場のお核がどの位のものかといふことを、その動力設備から見ると、八十五工場中動力設備を持たないものが十三工場、残り七十二工場に於ける動力設

新支那國本

自給自足を目ざす奥地の經濟建設の狀況、言ひかへると、果して奥地だけの自給自足ができてゐるかどうかといふ問題、二はさうした要請下にある民衆の生活がどうなつてゐるかといふ問題——

經濟建設はいかに進んでゐるか

戰爭は何よりもまづ軍需工業如何に依存する。そこでまづこの問題から片づけてゆかう。元來奥地には近代的な工業は全然存在しなかつたといつていゝ位であつたから、蔣政權のつた第一の政策は上海、漢口等からのいはゆる移轉工場に力を注ぐことであつた。これに事變後新らしく奥地に設立された工場と在來からの工場が加はつて、奥地の全工業が成り立つてゐ

備は石油機關十二臺（二百三馬力）電動機二百臺（一千四百二十二馬力）で、總馬力數一千三百四十五馬力、一工場平均十五馬力八三に過ぎない。これを一九三三年の上海機械工業に於ける一工場當り平均馬力數二十三馬力四に比較すれば、その規模が如何にチャチなものであるかが分らう。

尤も右の數字は一年前の數字であるから、それから以後いくらかの發展はあつたかも知れないが、それにもかゝはらず、昨年末香港の「大公報」が次のやうに慨歎したことは、なか／＼以て興味あることである——「大公報」は經濟建設の困難な點として、原材料の不足、勞力の不足の二點を挙げ、かう述べてゐる。「歐洲戰爭發生以後、材料の來る源は未だ斷絶せりとは言へ

ぬまでも、現在すでに大きな障害を生じてゐる」
 (斷つて置くが、これは佛印ルートが遮断され
 ない前の話である)となし、更に「現在の困難
 は、單に(原材料の)價格が暴騰してゐるとい
 ふだけでなく、高價を拂つても貨物を手に入れ
 ることができないことである」と慨いてゐる。
 次に労働者の問題について「工業は専門的熟練
 労働者を必要とするのに、我等が過去に有して
 るた熟練労働者の層は極めて少く、それが、海
 岸地方に集中してゐたので、今次抗戰に於て後
 方建設を始めるに當つて破綻を生じてゐる：：
 しかも現在の困難は勞銀が高いといふだけでな
 く、高い勞銀を出しても労働者が求められない
 事である」とし、かくて結論として「人力、物
 力共に缺乏してゐる結果、一切の發展計畫は無

用に歸し、すでに開始した事業も已むなく停頓
 状態に陥り：：袁氏(國府資源委員會)の意見
 によれば、この兩者の問題が何等かの方法で解
 決されぬ限り、資源開發や投資を論じてもそれ
 は座上の空論に過ぎぬ」と斷定してゐる。
 經濟建設の中心地重慶の状態が以上の如くで
 あるから、その他の地方は推して知るべしで、
 要するに、奥地の軍需工業はせいゝ町工場程
 度の小工場が大部分、これに二三、官營乃至半
 官營の工場が、やゝ近代工業としての形をなし
 てゐるが、これとて到底大作戰の需要をみたす
 ことは不可能で、遊撃戰の鐵砲彈を自給するく
 らゐが關の山といふところである。

食糧不足と蔣政權の對策

次に食糧の問題に移らう。奥地、即ち、西南
 各省、西北の面積は五百萬平方斤、約一億の人
 口を擁してゐるといはれる。その食糧は米、小
 麥、玉蜀黍、甘藷等であるが、今その需給關係
 を見ると、まづ蔣政權の本據たる四川省は有名
 な米産地で、相當の餘剰を持つてゐる。また湖
 南省は「中國の穀倉」といはれるほどであり、
 湖北省また移出省であるが、前者の北部は戰區
 となり、後者また最近の宜昌作戰で我が方の占
 據地となつた。その他の諸省は平時に於ても食
 糧不足に悩んでゐる地方であり、特に廣東、廣
 西、雲南、福建の諸省は年に百萬廳の米、五萬
 廳の小麥粉を輸入してゐる状態である。
 からした地方へ蔣政權の軍隊と共に、三千萬
 と註せられる難民が流れこんだのであるが、内

部に於ける各輸送路の不圓滑、戰時特有の農業
 生産力の低下、特に農業勞働力の不足、などの
 事情から、地方的にあちこち食糧恐慌を惹き起
 してゐるやうである。
 ところで、これに對して蔣政權はどういふ對
 策をとつてゐるかといへば、第一には、流れ込
 んできた難民を動員することによつて、未開墾
 地を開墾しようといふ政策である。併し一體に
 支那の奥地は平地少く、土地は瘠せてをり、開
 墾し得べき土地は、現在までに開墾しつくされ
 てゐるといふ状態で、新たに開墾可能の土地は
 想像以上に少い模様である。これに加へて、難
 民の素質の劣悪、先住人との摩擦等の事情もあ
 り、この新開墾による食糧増加は大して効果あ
 るものとは思へない。

第二に蔣政權は阿片、それから部分的ではあるが、商品作物を、食糧作物へ轉換させようとしてゐる。昨年五月、蔣政權は阿片を栽培せる者は死刑に處すといふ徹底した法律を出し、これが食糧作物への轉換をはかり、その効果も相當にあつた模様であるが、一方民衆の根強い阿片吸飲癖、阿片栽培の有利なこと等の理由から、貴州、雲南等比較的蔣政權の統制力の弱い地方——この地方が阿片栽培の中心地——に、どこまでこの政策を推し進め得るか、尙ほ疑問の餘地が多い。

更に第三に、栽培方法の改良による增收策として、巨額の農村金融を行ひ農事改良に努めてゐるが、これとて地主の懐を肥す部分が大部分で、一般農民に均霑するところまでは行つて

ゐない。

以上のやうなわけで、増産政策としては大したことはないが、こゝ一兩年來の天候順調が利いて、増産とまでは行かないとしても、とにかく相當の出來を示してゐることは事實らしい。然しこれだけで食糧問題が解決するものでないことは、例へば次の如き「大公報」の報道によつても窺はれる。曰く「最近農産物の價格は低落してゐるのに——但し都市では騰貴してゐる——農業労働者の賃銀は三、四倍以上に騰貴し作男を雇ふことが出來ないので、成熟した稲は田畑に立枯れになつてゐる状態である」。

物價の暴騰と労働強化

こゝで我々はすでに、奥地建設の現状が自給

マツチ一箱 二分 一角

自足といふにはなほ餘りに遠い距離にあることを結論してもいゝのであるが、いま一つこれを補足する意味に於て、重慶の物價の狀況を示しておかう。重慶市の卸賣物價指數は一九三七年六月（事變直前）を一〇〇として本年一月は三四七・一、二月は三七四・三といふ有様で、その後も飛躍的に騰貴してゐると傳へられる。個々の品物については、例へば「上海毎日新聞」（四月七日）は次のやうに傳へてゐる。

	事變前	現在
皮靴一足	六元	六十元
綿布一尺	一角	一元二角
靴下一足	二角	二元四角
洋蠟燭一本	六分	四角
老刀牌煙草一箇	八分	六角
電燈球一箇	一元	八元
石油一斤	二角三分	三元二角

新支那讀本

かうした物價高、それによる生活苦が一般民衆にどんな影響を與へてゐるかは、的確には分らない。元來支那の民衆は、古來からの飢饉、兵亂等によつて「已むを得ざる節約」には慣れてをり、最後には餓死を以てすべての生活問題を解決するといはれてゐるから、他の國に於けるほど、生活苦の問題が社會問題となり、蔣政權の基礎を脅かすとは思へない、ともいへるのであるが、それにもかゝらず、上海、南京、漢口等比較的進んだ地方からの難民によつて、最近急激に膨脹した重慶、成都等の都市を中心とする生活苦の問題は、蔣政權の民心把握に重大な影響を與へるものと見ないわけには行かない。これに加へて、民衆の日々の労働は一段と苦

支那民衆の異常な忍耐力

しくなつてゐる。何故なら元來、資本、技術の不足にもかゝはらず、生産増加を圖らうとするのだから、その方式は當然一般民衆の勞働強化に依據せざるを得なくなるのだ。かうした事例は各方面に見られるが、こゝでは一例として鐵道建設に於けるいはゆる徵工を擧げておかう。徵工とは鐵道の路盤工事など比較的簡單な土木工事に、その地方の住民を強制的に割當徵用し一人一回の作業日數幾日、一人一日當り土工能力いくらと割當て、各郷鎮長、街村長に責任を持たせて働かせるものである。事變前に於てもこの徵工は、支那の交通建設の一特徴であつたのだが、事變後これは一段と廣汎に強化された。湘桂鐵道、滇緬公路の建設の如きはその典型的なものであつた。

かうした生活苦、勞働強化も、いはゆる「有錢出錢、有力出力」の原則に従ひ各階層が應分に負擔し、かつ抗戰の前途に確たる見通しがあれば、民衆はなほ蔣政權に追隨して行くだらう。だが第一に「有錢出錢」は行はれてゐない。例へば資本家連中である。なるほど民族資本の若干は、前述のやうに奥地に移つて活動してゐるが、大部分の資本は奥地を嫌つて、上海、香港等の安全地帯に逃れ、こゝで投機資本になつてゐる。それは抗戰に役立たないのみか、抗戰の障害にさへなつてゐるのだ。

第二に抗戰の見通しについても、新國民政府の成立によつて、前途全く暗澹たるものとなつ

た。早い話が、新國民政府治下の復興が着々進み、民衆の生活が安定するにいたつたとすれば、蔣政權下の民衆は、その「抗戰建國」のスターガンに疑惑の念を持つまいとしても持たざるを得なくなるだらう。

そこで蔣政權は、躍起となつて種々な對抗策を講じ、あらゆるデマ宣傳に耽つてゐるのだが、嚴たる事實の前にはすべてが次から次へと正體暴露の喜劇を演ずるだけだ。こゝで日本がしつかり構へてもう一押しすれば、蔣政權が手もなくひつくり返るだらうことは、もう太鼓判を押しても間違ひあるまい。

しかし我々は單に蔣政權の弱體性を剔抉して快哉を叫ぶことに満足してはならない。何よりもまづ、二三年前までは、「支那の植民地」でし

かなかつた奥地に、支那民衆が新らしい建設の鉄釘を打ちこんだこと及びその際支那民衆が示したすばらしい情熱と努力には、たとひそれが誤つた方針に指導されてゐたにせよ、東亞新秩序建設といふ大目標からすれば、われ／＼はこれを高く評價すべきである。それだけ、われ／＼はこの蔣政權下にある民衆が解放され、われ／＼に協力する日の一日も早からんことを心から希望する。同時に敗戰の連續によつて三年間鍛錬され、如何なる困苦、如何なる勞働にも堪へ忍び得るまで生育したこれらの民衆と協力するに當つて、我々日本人はまたどうあるべきかといふことも、こゝで深く強く反省されねばならぬ。斷末魔の蔣政權下の狀況は、われ／＼にかうしたことを教へるのである。

共産黨・軍及び國共關係

黨現在の組織と首腦

「抗戰支那」の推進力として、中國共産黨の地位は、最近いよゝ重きを加へてきた。支那事變勃發の前年、昭和十一年十二月の西安事件の際には、一つの貧弱なソヴィエト區と、かき集めてやつと七八萬の共産軍を擁するに過ぎなかつた黨は、翌年七月七日の蘆溝橋事件、續いて國民黨との合作成立によつて、合法的地位を得ただけでなく、共産軍を國民革命軍第八路軍に改編することにより、昨日までの敵である

國民政府の賄ひで、兵力を保存、擴張することが出来るやうになり、また「邊区政府」の名の下に、重慶側に一指をも染めさせない強固な根據地の建立に着手することが出来たのであつた。

それから三年、黨は雪達磨のやうに、ますます太る一方で、抗日戦線に於けるいはゆる「比重」は、三年前とは隔世の感があるほど重くなつてゐる。人によつては、すでに重慶國民黨よりも重くなつてゐるとみる向きもあるほどで、漸次國民黨の地位に迫りつゝあることは、何として

も否定するわけにはゆかない。

かゝる黨勢力の増大は、必然抗日戦線内部に於て、國民黨との摩擦を生ぜずには置かない。果然、國・共相刻の報は、櫛の齒を引くやうに達してゐるが、しかし英佛の援蔣が一應終熄して、「抗戰支那」の支柱としては、ソ聯一本脚を剩すのみとなつた今日の國際情勢下に於て、重慶國民黨が共産黨との合作を破り、ソ聯からの援助をフイにしようとは思はれない。

だが一方、重慶政府内部に於ける和平熱の昂揚といふことも考へねばならず、それは或ひは重慶國民黨をして、反共クーデターを執行させるかも知れない。けれども、さうなつたとて、黨・軍・邊區が一舉に絶滅しようとも考へられない。依然として西北支那の一隅に割據して、

相當長期に亘り東亞新秩序の敵として残るであらう。——黨・區・軍及び國共關係の検討を怠るべからざる所以である。

中國共産黨現在の組織は、政治局が最高機關であり、張聞天をその總書記とし、委員に左の十六人を擁して居り、これが黨の最高幹部とされてゐる。

毛澤東、朱德、周恩來、陳紹禹、秦邦憲、林伯渠、彭德懷、林彪、寥慶雲、李富春、趙容、何克全、王稼祥、葉挺、賀龍。

全國を次の四區に分ち、各區に局を置き、書記をして統帥させてゐるといはれる。

名稱	管轄區域	書記
(一) 滿洲局	滿洲國全部	
(二) 北方局	黃河以北、山西、山東、河北、察哈爾	任弼時、楊尚昆

- (三) 中原局 黄河以南、長江以北、劉少奇、漢水以東、津浦以西
- (四) 南方局 長江上下流及び廣、董必武、東、廣西、福建

南方局の下に、特に東南分局があり、項英を書記とし、長江下流一帯を管轄させてゐる。それから黨の本據である陝甘寧邊區には、邊區委員會（書記高崗）があり、日本軍の占據せる中、南支の各大都市には、點線委員會を置いてゐる。

地方各局の下の組織は、その地方々々の事情を參酌して定め、必ずしも劃一してゐないやうだが、大體、省には省委員會、以下順次に縣委、區委、支部、小組となつてをり、市には市委員會、游擊區には游擊軍政治部がある。

中央政治局の下には邊區政府（主席林伯渠）、書記處、組織部、宣傳部、軍事委員會（主席毛

澤東）青年委員會、婦女委員會、工人委員會（書記劉少奇）等がある。

昭和十四年成立の國民參政會は、共產黨側が最も力を入れた初歩的民意機關であるが、この會の參政員として毛澤東、陳紹禹、秦邦憲、林伯渠、吳玉章、董必武、鄧穎超七人が數へられてゐる。

陝甘寧邊區の實情

中國共產黨の本據であり、共產軍の後方根據地である陝甘寧邊區は、一九三〇年陝西共產黨の首領劉子丹等に依つて創建された陝甘邊ソヴィエト、陝北ソヴィエトの二ソヴィエト區の後身である。一九三五年江西の共產黨・軍がこの地方に到着するや、この二ソヴィエトを統合し、

ソヴィエト中央政府西北辦公處を設立したが、一九三六年十二月の西安事件後、改めて邊區政府を設立したのである。三七年支那事變勃發するや、黨代表は蔣介石と會見し、その結果邊區政府は行政院の直轄に歸することとなり、同年九月六日から正式にその存在が認められた。

現在邊區の範圍は、陝西北部の延安を中心とし、同省十六縣、甘肅の慶陽等の六縣、寧夏の鹽池、合計二十三縣といはれ、人口二百五十萬を有してゐる。大部分は黄土草原であるが、延安等の十八縣は、それでも耕作に適し、食糧、豆、棉花、石油、食鹽、畜産等があり、石炭、鐵も自給に足ると、邊區政府林伯渠は自畫自讃してゐる。

名義だけは行政院の管轄となつてゐても、事

實上には重慶國民黨及び重慶政權に一指をも染めさせず、儼然たる中央ソヴィエト區を形成してゐる。

黨の元老林伯渠を邊區政府主席兼財政廳長、邊區銀行長とし、重慶政權系の行政官を一切無視し勝手に行政を行ひ、縣長を任免し、邊區銀行紙幣を發行流通させ、抗日捐、救國公糧、富戶捐、土地捐等二十數種の惡税を人民に課してゐる（稅收約百四十萬元）。

最も力を注いでゐるのは教育事業で、「抗大」の名を以て知られる抗日軍政大學（校長林彪、教育長羅瑞卿）、陝北公學（校長成仿吾、もとは文藝批評家で、郭沫若等の創造社の一派である。）魯迅藝術學院、マルクス學校、レーニン學校、實用科學研究所等の高等專門學校の外、七

百六の小學校（就學兒童一萬六千）、六千の識字組（簡単に読み書きを教へる組織、組員約四萬）がある。これらの機關によつて、赤化教育が着着進められてゐるのである。その他の各種工作は、ほゞ左のごとくである。

(一) 民衆動員。邊区内の民衆壯丁八萬人を動員して、第八路軍の補充に充てた。少年先鋒隊に動員した青少年二萬八千。右いづれも最近二年間の統計である。

(二) 自衛軍の編成。全民武装を目的とする自衛軍條例を發布し、性別を問はず、邊區保衛の責を課した。軍の兵力二萬三千、邊區保安司令部の指揮を受けてゐる。

(三) 後方工作。共產軍兵士の家族を優待するため、代耕隊を組織し、將士への慰勞として、

靴下六萬足、手袋十萬對、毛織チヨッキ十萬枚を送つた。除奸組を組織して土匪四十一組を肅清し、一千二百挺の小銃を獲得した。

(四) 難民救済。重慶政府からの交附金十萬元を基礎とし、中三萬元を直接救済に、七萬元を難民救済の手工業に用ひた。宋美齡寄附の五千元を基本金とし、兒童救済院を設立した。

(五) 平等選挙の實行。邊區參議員制度を創設し、無記名投票を實行した。

(六) 農耕地の増加。一九三九年に於ける耕地面積八百九十九萬畝で、三年間に五十六萬畝を増加した。

(七) 公營企業。紡績工場一、石油廠一、石炭礦三、印刷所三、機械修理廠一、製藥廠三、農具製造廠二、その他石鹼、セルロイド、麥粒

工場等。

共產軍の實力

共產黨の有する力の根元は何であるか？いふまでもなく共產軍である。共產軍の游撃によつて小ソヴィエトが出来、それが寄り集まつて大ソヴィエト区となり、終にソヴィエト中央政府が出来来る。また共產軍を用ひて、ソヴィエト區を擴張する。これが中國共產黨の定石である。他國の共產運動とは、はるかに類を異にし、支那共產運動の特徴を成してゐる。従つて中國共產黨の共產軍を大切にすることは、局外者の想像以上である。

一九三三年が共產軍の全盛期であつたが、當時の兵力は約三十萬と稱されてゐた。その後蔣

介石の共產軍討伐が進捗するとともに、漸次降り坂となり、一九三六年の西安事件當時には、やつと七八萬しかなかつた。西安事件に於て、蔣を殺せといきまく急進派を抑へて、黨の最高幹部が蔣の助命を主張したのは、コミンテルンの命令でもあつたが、一面共產軍の實力を保存し、捲土重來、一大共產軍を結成しようといふ魂膽でもあつた。

だから國・共第二次合作が成立すると、逸早く共產軍主力を國民革命軍第八路軍（總指揮朱德、副指揮彭德懷）に改編し、蔣介石の賄ひで、ヌク／＼と太る算段をした。翌一九三八年には、江南、福建地方に残して置いた游撃隊を解散して、新四軍（軍長葉挺、副軍長項英）に改編したのである（第八路軍は後第十八集團軍と

改名)。

さうして蒋介石から軍費を貰ひ、セッセと軍隊を擴張し、目下第八路軍が約三十萬、これが陝西、山西、山東、河南、河北に分散し、新四軍十萬が、安徽、江蘇地方に游撃してゐる。合計四十萬で、すでに一九三三年の全盛時代の兵力を突破してゐるのであるが、彼等はこれを以て足れりとせず、百萬計畫を目指して猛進してゐる。蒋介石から貰ふ軍費を、現在兵員の給養にのみ充當せず、これを兵力擴張に利用しながら、重慶に對しては、「八路軍の兵士給與月額二元七角二分は、法幣暴落の結果六角七分にしかならない」と稱し、その増額を引つきりなしに請求してゐるのである。その狡猾、見やうによつては蒋介石以上である。

國共摩擦問題

抗戦を利用して兵力の擴張を圖り、一方日本軍との衝突を回避して既存兵力の保存を策するといふ共產軍のやり方に對しては、主として國民黨軍の側から不平が勃發し、昨年來國・共兩軍の衝突が頻々として起つた。いはゆる國・共摩擦問題は、かくして世人の注目を惹くに至つたのであるが、元來主義を異にする兩黨の、相互利用に發した提携であるから、摩擦は當然のことである。故に一昨々年合作成立するや否や、數ヶ月を出でずして、兩黨黨部の衝突、共產黨機關紙の燒打事件等が頻發してゐるのであるが、合作が抗日戦線の樞軸たることをよく知つてゐる蒋介石は、その都度、むしろ共產黨の

言ひ分を通し、國民黨側の策動を封じて來た。共產黨幹部に於ても、コミンテルンの眞意を體し、抗日戦線の維持を第一義として來たため、摩擦は末梢に於てであると思はれてきたのである。

ところが最近になつて、重慶側の態度が少し變つてきた。蔣系の將領で、最も共產黨側に同情を持つてゐるといはれた陳誠までが、「八路軍は游んで撃たず。延安に一人の傷兵なし」などといひはじめたのである。共產黨及び軍に對する目附役として、西北地方にチツとしてゐる胡宗南軍(蔣直系軍の最精銳で、まだ抗戦に一度も参加してゐない虎の子軍隊であると言はれてゐる)が、共產系の山西新軍を、抜く手も見せずバツサリと解決してゐるのである。共產軍の

躍起となつての抗議にもかかわらず、蔣は平然と構へてゐる。と、見てゐるうちに、軍事委員會委員長天水行營(主任は、はじめ程潛、後朱紹良)政治部の名で、「中國共產黨の不法行爲及び抗戦破壊事實の概要」と題する文書が、去る三月發表されたのである。

從來でも國民黨系將領の反共通電の類は、一再ならず發表されたのであるが、天水行營の同文書はその重要性に於て同日の談でなく、恐らく重慶側から發表された最初の公然たる反共聲明と目すべきものであり、且つ又その内容に於ても、全文二十二頁を、(一)緒言 (二)いはゆる陝甘寧邊區の實情 (三)行政破壊の事實 (四)友軍の消滅行爲 (五)游撃工作の真相 (六)善良なる民衆の慘殺と壓迫の事實 (七)山西省新

軍叛亂援助行爲（八）濫りに軍隊を擴大し、且つ金融を攪亂せる事實（九）結論の九項に分ち、共産黨・區・軍を完膚なきまでに痛烈に非難してゐるのである。

この公然たる非難に對し、共産黨側も黙してゐず、機關誌「解放週刊」の五月中旬號に於て痛烈な反駁を試み、天水行營文書の各項を取上げて、さる事實なしと辯明し、罪はかへつて國民黨にあるとて、抗戰以來頑固反共分子が、華北に於て慘殺した第八路軍幹部の數一千四百人以上、新四軍將兵家族の慘殺されたもの數千人に上る事實を暴露してゐる。

摩擦が末梢から中樞へ移つたことは、右の兩黨應酬を見て斷定出来るが、分裂までは豫斷し得ない。冒頭に述べたやうに、英佛援蔣の消極

化が、抗戰のソ聯への依存の必要を増加させたからである。

かくの如く、支那に於ける共産勢力の増大は、支那事變並びに東亞新秩序の建設に障礙をもたらすものであるから、この點にわれ／＼は重大な關心を持つと共に、今後に處する備へを整へねばならない。

昭和十五年十二月三日印刷
昭和十五年十二月五日發行

週報叢書 3
新支那讀本
定價 二十錢

複製及び
無断轉載
を禁ず

編輯者

内閣情報部

東京市麴町區丸ノ内三丁目

印刷者

内閣印刷局

東京市麴町區大手町

申込所

内閣印刷局發行課
電話丸ノ内(23)三五一一九
振替東京一九〇〇〇番
全國各地官報販賣所
各書店・驛賣店



書圖纂編廳官行發局刷印閣内

書名	定價	送料	備考
週寫週報	五錢	送料共	
週寫週報	一〇錢	送料共	
昭和十二年上篇	定價一圓八五錢	送料共	
昭和十三年上篇	定價一圓三〇錢	送料共	
昭和十四年上篇	定價一圓三五錢	送料三錢	
昭和十二年下篇	定價一圓三〇錢	送料共	
昭和十三年下篇	定價一圓三〇錢	送料共	
昭和十四年下篇	定價一圓三五錢	送料三錢	
寫眞週報綴込表紙	九〇錢	送料一〇錢	
職員手帖	四〇錢	送料三錢	
臨時資金調整法令	定價 一六錢	送料三錢	
恩給法關係法令集	定價 三五錢	送料六錢	
國家總動員法令集	定價 一圓三〇錢	送料一〇錢	
追録第四回	定價 一二錢	送料三錢	
物價關係法規類集	定價 一圓六〇錢	送料一四錢	
追録第一回	定價 三五錢	送料六錢	
會計検査法規抄	定價 一圓二〇錢	送料九錢	
會計検査法規集	定價 四圓五〇錢	送料三錢	
加除篇第一號	定價 一圓九五錢	送料一四錢	
神武天皇御紀謹解	定價 三〇錢	送料六錢	
國體の本義	定價 三五錢	送料共	
國體の本義解説叢書	定價 二〇錢	送料共	
◎明治以後詔勅謹解	◎日本の儒教	◎我が國體と神道	◎我が風土・國民性と文學
◎我が國體に於ける和	◎肇國の精神	◎帝國憲法と臣民の責務	◎日本の美術
◎御歴代の聖徳に就いて			

777
37



20

1

2

